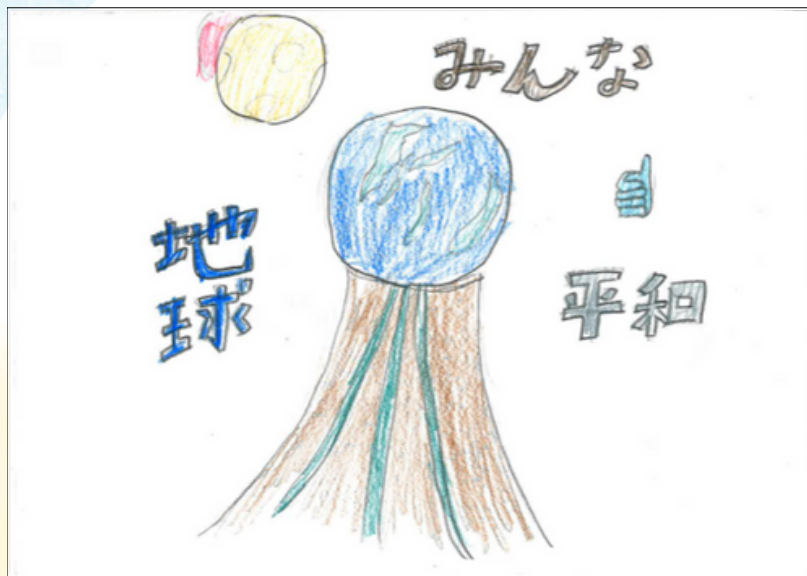


第三章



平和な地球に住む。みんな平和になってほしいと思います。

私はイスラム教でふた肉やアルコールがはいっているものが食べられません。イスラム教以外の人でもしゅう教上の理由で、食べられない物があったりアレルギーなどの理由で食べられないものがある人もたくさんいます。そこで「私はこのスーパーにいけば食べられるものがうってる」そう、だれもが思えるようなおみせがふえると、いろんな国やふんかの人があんしんしてくらせる町になると思います。そういうみらいになるといいなとおもってこの絵をかきました。



みんなが平和で笑顔でくらせるようになってほしいと思いを込めた。

1. 推進会議の記録

本事業では、事業推進委員会議を計3回開催しました。各会議の要旨について、報告します。

1) 第1回の会議について

<要旨>

- ・開催日時：2023年6月2日（金）10:00～11:30
- ・会場：オンライン会議ツールZoomにて開催
- ・出席者：計42人（推進委員30人、オブザーバー11人、ワーキンググループ1人）

<報告事項>

1. 国の動向と本委託事業の位置づけについて

・片桐由紀子氏（文部科学省総合教育政策局国際教育課 調査官）より、公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数の推移・日本語指導の現状等の説明とともに、本研究がいかに関わって日本で求められているものであるかについての報告があった。

2. 本事業の目的および内容について

・小島祥美事業推進委員長より、本事業で行なう「ステージ別記述文の妥当性検証」の概要説明と、妥当性の検証（ワークショップ）の進め方についての説明があった。

3. 昨年度の成果と今年度の計画、妥当性検証について

・CAN-DO作成部門の佐野愛子副部門長より、昨年度の「高等学校等における日本語能力評価に関する予備的調査研究事業」についての結果報告があった。

・その後、CAN-DO作成部門の櫻井千穂部門長およびデータ分析部門の野口裕之部門長より、具体的な記述文の妥当性の検証方法について、簡易版の記述文とDLA動画を用いての説明があった。

4. 本事業の意義について

・真嶋潤子委員より、本事業の意義・事業推進委員の構成・本事業の目指すところに関する報告があった。なお、「推進会議の文字記録」に真嶋委員の発表内容（全文・委員による確認済み分）を掲載する。

5. 本事業に期待すること

・中島和子委員より、「安心して」使える「年少者用日本語能力評価参照枠」の新たな誕生への期待と、「年少者用日本語能力評価参照枠」の重要性に関して4点にまとめて報告があった。なお、「推進会議の文字記録」に中島委員の発表内容（全文・委員による確認済み分）を掲載する。

6. 意見交換

・伊東祐郎委員より、本事業へ寄せる大きな期待についての意見があった。なお、「推進会議の文字記録」に伊東委員の発言内容（全文・委員による確認済み分）を掲載する。

<推進会議の文字記録>

1. 真嶋潤子委員「本事業の意義について」

皆様こんにちは。大阪大学の真嶋と申します。現在ドイツに滞在中で、時差を乗り越えることができず、本日の会議の出席が叶いませんので、このようなビデオメッセージで失礼いたします。

私は大学の留学生の日本語教育と、日本語教員の養成に長年携わってまいりました。この1年余りはケルン大学において、ドイツの移民受け入れの政策や移民の社会統合のための言語統合プログラムやドイツにおける日本語教育について学ぶ機会を得ております。

日本国内では2019年の日本語教育推進法に続いて、本国会で審議された法律、日本語教育機関の認定等に関する法律案がありますが、この付帯決議の3番目に本事業、私達の今回のこの事業に関係する項目が含まれていると思います。赤字のところだけ見ますと、日本語教育を必要とする子どもが、ライフステージに合わせて小中高等学校において適切な支援を受けられるよう、個々のニーズ、レベル、発達状況に応じた切れ目のない日本語学習機会の提供のための支援に必要な施策を講ずることというふうになっています。その一つが本事業だと言えます。

本事業の意義を3点に絞って申し上げたいと思います。

一つは、日本全国で待たれている事業であるということ。外国人の生徒、日本語の通じない生徒の言語能力をどうやって評価し伸ばしていったらいいかわからない、力をつぶしてしまっているんじゃないか、芽を摘んでしまっているんじゃないかという現場の先生方の嘆きに応えることのできる、そのための事業です。それから、学校現場を元気にする事業であったということです。この事業を理解した方が、こんなふうに見えるのかとか、私もやりたい、成長したい、この生徒を伸ばしたい、私も伸びたい、学びたい、そんな声に応えるための方策の一つだと思います。

そして日本社会を公正で住みやすい社会にするための事業であるということも指摘したいと思います。日本語が母語でないことは人間としての欠陥ではありません。違いは悪ではありません。社会の公正は自然には発生しません。意識して努力する必要があると思います。意識して努力するということの中身、内容の一つとして本事業があるというふうに位置づけられると思います。

本事業の推進会議のメンバー、委員の構成を見たところ、三つのカテゴリーにわかれていますね。これが素晴らしいと思ったんですけれども、まず一つは理論や方法論、検証をリードできる広い分野の研究者や専門家の方々です。専門分野が日本教育学の専門だけでなく、社会学、バイリンガル教育、地域研究、国際協力の方々や組織を代表する方々、しかも国内外での経験に基づく広い知見をお持ちの方々、従って「この日本語をどのように教えるか」といったピンポイントのミクロの問題だけではなく、広く社会的公正性まで視野に入れた議論ができるということ、そのような事業であるということ、そして2番目のカテゴリーとして日本の公教育の教育施策の要であり、指導の立場にある自治体の教育委員会の方々が多く参加してくださっていること。これも素晴らしいと思います。さらに教育現場、実際に日本語指導が必要な生徒の多い高等学校の管理職の先生方、実施責任者である先生方が何人も参加してくださっていることは素晴らしいことだと思います。校長先生方、そして教頭先生方も非常にありがとうございます。感謝申し上げます。

そして、本事業の目指すところを最後に申し上げたいと思います。3点あります。

外国人の生徒のための公平公正な育成を意識し、目指した事業であるということ、これは日本の長い歴史上初めての試みだと指摘することができます。また、社会的弱者の秘めた力の芽を潰すのではなく、発育を促すための事業です。そうすることで、本人だけでなく家族や学校、そして社会が人的言語的リソースを享受できる可能性があって、これはカナダのジム・カミンス先生がおっしゃる変革的教育、社会変革の可能性を秘めたもので、それを期待したいと思います。

それから最後に、これまで教室で孤軍奮闘してきた善意の教育関係者を力づける道具立てを専門的学術的裏打ちのある方法で利用可能にするための事業だということです。なので、この事業は非常に大きな社会を変えていくということも含めて、大きな期待を寄せているものです。事業の具体的な展開についてはこの後、中島和子先生からお話があります。

この素晴らしい事業の推進委員に加えていただいて誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 中島和子委員「本事業に期待すること」

このプロジェクトに期待することというのですが、答えは「もちろん期待で胸を躍らせてわくわくしています」と言ったらいいでしょうか。とにかく今までなかった「安心して」使える「年少者用日本語能力評価参照枠」の新たな誕生ですし、文化庁の成人用の日本語教育参照枠とは違って、子どもの年齢、また子どもの言語発達段階を踏まえた小・中・高と一貫して使える子どものための「聞くと話す」と「読み」の、つまり二つの技能の記述文（CAN-DOリスト）ができるからです。「書く」も昨年度の成果を踏まえて、いずれ新たに加わる予定だと聞いております。私はこの年少者用参照枠が、次の4点で非常に貴重なものだと思うのです。

第1は、この参照枠が子どもの言葉を育てるという教育的立場から作られていることです。語彙とか文法とか、表記とかではなく、教育の立場から作られており、子どもの参照枠は年齢差に即して小中高一貫したものが必要であり、それは非常に難しいし、時間のかかるものです。ただそれは必要なことであり、本事業が参照枠も含めて常に教育実践に役に立つものを目指して、実践と密着した形で組まれているということは大変大事なポイントだと思います。

第2は、この日本語能力評価が日本語だけに焦点を合わせるだけではなくて、子どもたちが毎日の生活で接触している日本語以外の言語にも配慮があることです。今日はそこまで時間がなくて、櫻井さんのお話の中に日本語以外の言葉との関係というのはあまり浮かび上がってきていなかったと思うんですけども、このプロジェクトの意図としては、子どもたちが持っている潜在的な言語能力、特に母語が大事な役割をしますが、言語間の関係を踏まえて互いに強め合う方向で子どもに働きかけることが極めて大事だと思います。日本の社会では、マイノリティ言語である外国人児童生徒の母語は、教師が教室で日頃から特別な価値づけをしてあげない限り、子どもたち自身が母語は役に立たないもの、無用なものとして自ら捨てていく傾向があります。ですからこの点がとても大事だと思います。

第3点は、野口先生のように第一線で活躍されている統計分析の専門家の力を借りてですね、構成概念の妥当性の検証に真っ向から挑戦している事業、ということです。これは非常に珍しいことかなと思います。私自身、カナダで必要に迫られて「バイリンガル会話テスト」を開発したり、日本では「対話型の読みの評価法」を櫻井先生と開発してきましたし、文科省委託の伊東先生の「DLA」の開発にも加わってきましたけれども、検証どころではなく、フィールドテストもなしに、さっと世間の目にさらされるという結果になりました。私にとって、妥当性とかその他の検証が常に課題でありながらも、論文を探してもなかなか見つからず、見つかったも内容理解が届かず、悲しい経験を重ねてきました。このプロジェクトでは、野口先生のおかげで検証がついに可能になり、大変嬉しく思います。評価は子どもの一生を左右する結果にもなりかねない大事なものですから、前にも申しましたように、妥当性の検証を経て、「安心して」使える参照枠が生まれることは本当に大事なことだと思います。

第4点ですけど、これは海外で育つ日本にルーツを持つ子どものことです。皆さんがこの事業で対象にしていることと少し違いますけれども、こういうツールを必要としているのはここだけではないという

ことを言いたいのです。こういう記述文による参照枠は世界的潮流ですので、海外で学齢期を過ごしている子どもたち、例えば、海外の学校教育機関で日本語を外国語として学んでいる子どもたち、週末に補習校や日本語学校で継承語として国語や日本語を学ぶ子どもたちのニーズは実に切実で、子どものためのテストがないために、大人用の日本語能力試験を12歳の子どもが受けるというようなとんでもない実態が現実にあります。

さらに付け加えると、これは私の推測に過ぎませんが、世界を見回して妥当性検証がなされている子ども用の参照枠はほとんどないだろうと思います。その意味で文科省委託の本事業は、日本だけではなく、グローバルな貢献をしており、国際的に評価されていいプロジェクトではないかと思います。

最後に付け加えたいことがもう一つあります。実はカナダ東部のオンタリオ州の文科省に当たるところがあるのですが、STEPという評価法を開発しました。それには7年かかりました。開発に5年、フィールドテストに2年です。本事業も実はそのぐらいの時間がかかって当然なものではないかと思うのです。文科省はなぜそんなに急ぐのかという疑問があると同時に、これを3年でこなしてしまうスーパーパワーのリーダーとその仲間がいるということに驚きを禁じ得ません。私の目は、ぐるぐる回りっぱなし。プロジェクトの進め方、またその波及効果には目を見張るものがあります。

例えば、今年目標であることばの力の評価ワークショップが良い例だと思うのですが、評価ワークショップという形態にして妥当性検証のためのデータを集めると同時に、ここからちょっと引用ですが、「このワークショップを通じて児童生徒の＜ことばの力＞をどのように引き出し、どのように捉えて評価するかの方角・方法の習得を目指します。このワークショップを通じて、小学校1年生から高校までのステージ1から6の言葉の力を網羅的にとらえることができ、児童の年齢やレベルに応じた支援の方法をより専門的に考えること」括弧閉じるということで、非常にインパクトのある全国規模の副産物を生み出していると思います。

そして最後ですが、最終的にこのプロジェクトが2年目に目指すところは、「学校での教育実践に活用できる＜ことばの教育参照枠＞とその活用方法（資料作成）の提案」とありますが、正直言って、まだ具体的に想像しにくいところがあります。ただ、リーダーたちの創意工夫に期待して、授業での教師の実践に役立つ素晴らしい資料が生まれることは間違いないと思います。大いに期待して楽しみに待ちたいと思っています。頑張ってください。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

3. 伊東祐郎委員「DLA開発研究代表として、参照枠作成の科研代表として」

それでは最後、一言述べさせていただきたいと思います。

中島先生がおっしゃったように、移民受け入れ国のカナダを始め、アメリカ、ヨーロッパの一部では、やはり言葉の壁、子どもたちの教育をどうするかということで、莫大な予算を投じて、人と時間をかけて調査研究がなされているということが過去ありました。残念ながら日本では移民受け入れをしていないということで、あまり注目もされず、バイリンガル教育に関して私達は海外から学ぶということしかしておりませんでした。しかしながら、世の中はグローバル化、多様化の中でどんどん外国人が増える中、移民政策はとっておりませんが、実際もう日本は外国人の人材なくしてやっていけないという状況があります。そういった中で子どもの教育をどうするかということ、やっと多くの人たちが興味・関心を持つようになったと思います。

3年かけて作ったDLA、作るだけで精一杯でした。先進国のように調査研究、妥当性の検証をしないまま来たということで、私達自身も不安を感じつつも普及に尽力してきたというところでもあります。今回のプロジェクトの一大意義はこの妥当性検証ですね。これがやはり大きな意味を持つだろうと思っておりま

す。それと同時にグローバル化、多様化の中で、経済産業界ではイノベーション、イノベーションということが声高に言われておりますけれども、今回の文科省のプロジェクト、そして私達の科研で妥当性検証を行っているDLA、これを合体させることによって、教育のイノベーションに繋がっていくのではないかと思います。その教育のイノベーションは技術革新ということで、テストのやり方だけでなく、教師教育への変革、また意識の醸成、そして将来、何と言っても夢のある、そして未来のある子どもたち、その子どもたちのいわゆる潜在的な力を発揮できるような、そのいわゆる改革に着手できるプロジェクトであるということで、私は本当にわくわくしております。

今回のプロジェクトは、私が知る限り、文科省のいろんな調査研究でも最大規模の大きさを誇っているのではないかと思います。私達、わくわくしています。どうぞ引き続き、推進委員の皆さんをはじめ関係する方々にはご尽力いただきたいと思います。文科省の皆さん、本当にありがとうございます。そして科研の皆様よろしくお願いします。以上です。

2) 第2回の会議について

<要旨>

- ・開催日時：2024年3月3日（日）9:00～11:30
- ・会場：オンライン会議ツールZoomにて開催
- ・出席者：計41人（推進委員35人、オブザーバー2人、ワーキンググループ4人）

<報告事項>

1. 本事業の目的・概要等

・本事業の位置づけや本事業へ期待することなどの話が、中野理美氏（文部科学省 総合教育政策局 国際教育課 課長）よりあった。

2. 本事業の概要と次年度について

●概要説明

- ・小島祥美委員長より本年度の取り組みについて、実施体制や3部門の役割、記述文案作成にあたって参照した諸外国の学習指導要領等の説明があった。また、申請中の次年度事業案についても説明があった。
- ・諸外国との学習指導要領の説明では、文部科学省調査の母語別日本語指導が必要な児童生徒数で最も多いポルトガル語を母語とするブラジル学習指導要領について、小貫大輔委員より説明があった。

●次年度に期待することや取り組みたいこと

- ・各ワーキンググループの担当者より、今年度の取り組みおよび今後の方向性等についての説明があった。報告は、竹本俊穂委員（福井県立足羽高等学校長）、横井健委員（愛知県立衣台高等学校教頭）、吉田益穂委員（岐阜県立東濃高等学校長）、和田さとみ氏（岐阜県立東濃高等学校国際部長）、大西俊猛委員（大阪府立大阪わかば高等学校長）、山田勝治委員（大阪府立西成高等学校長）の順で行った。
- ・講評は、高橋清樹委員が行った。なお、「推進会議の文字記録」に講評内容を掲載する（全文・委員による確認済み分）。

3. 今年度の部門別報告について

●CAN-DO作成部門からの報告

・「思考・判断・表現を支える包括的なことばの力（複数言語での力）」と「日本語固有の知識・技能・様態のことばの力」の2つの視点から作成する記述文（試案）について、櫻井千穂CAN-DO作成部門長、伊澤明香委員より説明があった。

・講評は、ダグラス昌子委員が行った。なお、「推進会議の文字記録」に講評内容を掲載する（全文・委員による確認済み分）。

・妥当性検証（量的研究）として、櫻井千穂CAN-DO作成部門長より、作成した31本のDLA動画の過程について説明があった。

・各映像について、映像別に担当者から説明があった。報告は、今川美幸委員（兵庫県教育委員会）、甲田菜津美氏（大阪府教育委員会）、野入はる香委員（豊田市立保見中学校）、横溝亮委員（横浜市教育委員会）、菊池寛子氏（西尾市教育委員会）、大菅佐妃子委員（京都市教育委員会）の順で行った。

●CAN-DO検証部門からの報告

・小島祥美CAN-DO検証部門長より、質的妥当性検証として行った2種類のワークショップの方法と参加者数、そこで収集したデータ数についての説明があった。

・講評は、真嶋潤子委員が行った。なお、「推進会議の文字記録」に講評内容を掲載する全文・委員による確認済み分）。

●解析部門からの報告

・分析進捗について、佐野愛子CAN-DO作成副部門長より、WS-Aで収集した記述文チェックデータ（171名分）の年齢枠3～5を用いた暫定分析報告があった。

・次年度に向けて、櫻井千穂CAN-DO作成部門長より、今後、野口裕之分析部門長を中心におこなう分析の概要と主に「多相ラッシュ・モデル」の共通尺度化に関する説明があった。

・講評は、野口裕之分析部門長が行った。

野口分析部門長からは、1年という短期間の中でゼロからスタートして、多くの時間を費やし、データ収集及び集約・整理などからデータ分析に至るまでのプロセスに置いて、櫻井委員、佐野委員、小島委員への感謝と共に、データ解析にあたっては、データが取得されるプロセスを見ることの重要性が強調されたことと地域別ワークショップへのオブザーバー参加をすることにより貴重な知見が得られたことなどについても言及された。また、分析に使用する多相ラッシュモデルについて、CEFR作成時を例にその根拠を述べるとともに、本研究の基礎的な分析は進んでおり、数値においても調査研究に対してポテンシャルの高い結果が出てきていること、次年度に向けて本格的な分析と解釈に向けて取り組んでいくことが述べられた。

4. 全体講評

・講評は、中島和子委員が行った。なお、「推進会議の文字記録」に講評内容を掲載する（全文・委員による確認済み分）。

5. 意見交換

・次年度のDLA改訂の言語数に関する質問があったため、次年度は日本語を含む8言語（中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、フィリピン語、ロシア語、英語、日本語）の予定である旨を確認した。

<推進会議の文字記録>

●教育実践に関する講評：高橋清樹委員

私も足羽高校の協議会に参加させていただきました。参加した5校の先生方の熱意というか、この取り組みに対する意欲をすごく感じる本当に刺激的な機会になりました。ありがとうございました。

その中で私からは3点ほど感じたことをお話したいと思うのですが、一つは外国につながる日本語指導が必要な生徒を主に受け入れてるというか入っている高校と、西成高校のように社会的な弱者をやはり受けて、その子どもたちへの教育実践をされている高校という2つカテゴリーで受け入れている高校が参加されていたので、すごく多面的な協議ができたかなと思うんですね。

外国につながる生徒も、やはり背景に自分の意志ではなく日本来るという選択をせざるを得なかった子どもたちがいたり、それからいろんな社会課題も本人の力では解決できない課題があったり、家族の問題も含めてですね。それからあとは、そういったところからやっぱり学びの姿勢とか意欲がなかなか育たなかったり、学習のリテラシーもなかなか持たずに、ただ直面する状況に、受身に向かっていくような生徒が多いということも事実としてあって、そういった背景も踏まえながらやはり子どもたちとどういうふうに学びを形成していくかということが一つ課題になってくるかなというふうに感じました。

それから2つ目はですね、その中で評価について、特に日本語ができない生徒が可哀想だから何とかしてあげて、場合によっては下駄を履かせて単位を取らせるとか卒業させるみたいな発想はよくないんじゃないか、ということが出たのが非常に印象的でした。まさにそうで、やはり日本語力だけではなくて、多言語能力とか、多面的な力を見ていくという観点で子どもたちの高校卒業に向けてどういう教育を取り組むかという視点が非常に重要だなというふうに感じました。

3点目として、残念ながら全国的には外国につながる生徒の指導は、日本語の担当にしわ寄せというか、日本語担当にお任せになってしまう傾向があるのですが、参加したこの5校はそういう意味では日本語担当以外多くの先生方が関わっていらっしゃるのを感じました。学校全体で多くの先生が教科で日本語を意識して、学びを作っていくことが大切で、そうでないと日本語指導だけが何か原因みたいな形になりかねないので、そういった意味ではやはり学校全体で教科の先生方も含めた取り組みが重要だという3点を感じましたのでご報告させていただきます。よろしくお願いします。

●記述文に関する講評：ダグラス昌子委員

日本の皆様、おはようございます。今回はですね、推進事業一年目が素晴らしい成果を生み出して終わるということのを伺って、本当に嬉しいし、もう大拍手です。今日はちょっと時間も限られていますので、講評として二つのことを手短かに申し上げたいと思います。

まずはこの記述文、推進事業でされてきたもう本当に膨大な作業の記述文の意義ということ、そしてこの記述文のこの先の利用について、私なりの期待を申し上げたいと思います。まずこの記述文プロジェクトの意義なんですけど、その言語の能力、Proficiencyについて構成されている部分が非常に複雑で多いということですね。ちょっと1枚だけこのスライドをご覧くださいなのですが、これは米国の外国語としての言語の伸びなんですけど、一番下、もう全く逆三角形の頂点でずっと膨れていくんですけど、中島先生はいつも継承語の場合は下は結構こうではなくて鍋底とおっしゃっているんですけど、いずれにしま

しても、Proficiencyが上がれば上がるほど、その中身が膨らんでいく。で、その膨らんでいる中身が何かというんですね、大変わかりづらいですよ。一体何だろうということで、それを今回のこの記述文のプロジェクトで、それぞれのこの上がっていくところの、学習者ができること、できてほしいと期待することが何かというのを理解できる形、それから評価できる形で明確に示してくれているということが非常に大きな意義だと思います。

それともう一つは今まで、今先ほど櫻井先生がずっとリストを見せてくださいましたけど、いろいろな参考資料、既存の参照枠とか、それから記述文はどれも一つの言語だけを扱っているんですけど、この事業の記述文というのは先ほども先生方や櫻井先生がおっしゃっていましたが、その子どもたちの持つ複数の言語の言語力、Proficiencyを視野に入れようとする、非常に画期的なものだと思います。つまりこの子どもの言語のProficiencyの一番強いところを見つけていこうっていう、足し算的な発想が原則にあるもので、これも非常に画期的なものだと思います。

それで今後、この記述文に対する私の個人的希望なんですけれども、この記述文が子どもたちのこの

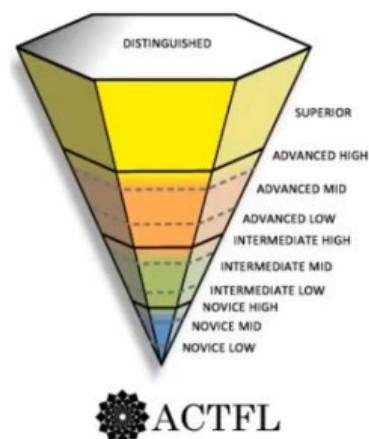
Proficiencyを語るとき、子どもたちの力について対話をするときのその共通の対話のツールになってほしいということです。つまりその子どもたちが、例えば次の学年、同じ学校でも次の学年に上がっていったら、新しい担任の先生になるときにその申し送りとして対話のツールとして使われる、あるいは子どもたちが転校して新しい学校に行ったときに、何ができていうところをやっぱり共通の会話で、それぞれの先生が話し合っていけるということで、教育に当たる皆さん、それから日本語の教育、その教育全般に当たる関係者の皆さんが共通の対話の言語ツールとしてこの記述文が使われていくというふうには是非なっていたきたい。これはすごく時間がかかることだと思うんですけども、米国でもProficiencyという概念が導入されてから、教育関係者がその言語を使って話すと、未だにギャップがあるところもありますけど、それでも初めの頃と比べると、もう普通に「この人はこのレベル」というと「そうですか」というふうにできるようになったという進歩はしておりますので、時間がかかりますがやっぱり是非そこを目指して記述文、頑張れー！と言いたいところで講評を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

●データ収集のワークショップ (WS-A/WS-B) に関する講評：真嶋潤子委員

真嶋でございます。こんにちは。私もご縁あって参加させていただいて、すごく勉強になって、元氣をもらいました。このワークショップ全体、事業全体かもしれませんが、参加した人、関わった人がみんな元気になるという効果が表れているようなので、来年も成果を出して、参加者だけじゃなく、それをもっと広げていっていただけるといいなと思っていますと、今日の私のコメントの最後のまとめに言うつもりだったんですけども（笑）。

ご報告があったように、30本ノック、地域別ワークショップで16,000件を超えるデータを取って、この量的な分析ということをや野口先生のアドバイスもあってされる予定だと思うのですが、このプロジェクトのすごいところは、やっぱり日本語ができないから、無能なように思われてしまっていた外国につながる子どもたちを包括的に見て、さっきの櫻井先生の話によく表れていましたが、思考・判断・表現を与え

第二回推進事業会議



る包括的な言葉の力と日本語の力を分けて考えるというところがすごくユニークで重要なところだったと思うんですね。

日本語固有の力っていうのは、学校の先生だったら誰でも、この子はあれができないこれができないというふうに間違いを指摘することは、例えば母語話者だったらできるわけですけど、それだとできない子っていうネガティブな塊になってしまうので、包括的な力を母語の方からも合わせて全人的な、1人の人として能力、潜在力を含めて捉えるというところがすごくいいところだと思っています。それを関わった人たちが元気になるって最初に言いましたが、そういう情緒的な感情的な部分も含め、それを使いながら、一方で統計的にちゃんと分析して科学的な説得力を持たせるということがすごく良かったと思います。

私も大阪のワークショップにも出させていただきましたけど、周りの皆さんがすごく気づきを得ておられたり、目から鱗が何枚も落ちたみたいな話をされているのを聞いて、すごく良かったと思いました。今年度を踏まえての来年度の教育現場へ戻せるツールにも期待したいところです。どうもありがとうございました。

●全体講評：中島和子委員

今日は色々勉強させていただきました。普通だったら5、6年にかかる研究内容ですよね、それを1年でやると聞いた時には、これはどうだろうか、大丈夫だろうかと思ったんですけども、全く問題なくやったじゃないですか。すごいですよね。本当におめでとうございます。中心になって活躍してくださった先生たちの力量が高いことは十分わかりますけれど、それに加えて小島先生のリーダーシップ、そしてやっぱりチームワークがよかったことが一番大きな要因ではないかと思っています。

素晴らしい結果なので、これ以上無理をしない方がいいという感じはします（笑）。でも来年度の目標も、もうはっきりしているんですよ。私にとってはDLAを生み出した者の1人として、このプロジェクトに関わらせていただいて、こんなに嬉しいことはないんです。久しぶりにDLAの現場を体験させていただいて、感慨深いものがありました。「対話型」のテストにしたということがDLAの大事な特徴であるにもかかわらず、それがマイナス面にもなったというのも事実です。テストに時間がかかることですよね。でも対話型の特徴、対話面だから分かることが録画に非常にはっきり出てきていて、対話にした価値を皆さんが証明してくださっているようで本当に貴重な体験でした。

このプロジェクトの目的は参照枠の開発ですが、それが「教育的配慮をもって開発された子どもための教育参照枠」だということが大事です。今までに開発されたいろんな参照枠がありますけれど、大人との違いはあんまりはっきりしていません。やはりまだまだ改良の余地はいろいろあると思うんですけど、その一歩として、教育的に配慮されたものができたということ、そしてそれが1年生から高校までの包括的な枠組みの参照枠だということ、高校の部分は、成人用と同じでいいんじゃないかって考えられがちですけど、やはり高校生は教育的配慮がまだ必要な年齢なので、この参照枠が高校生までの一貫した枠組みであるということが極めて重要です。

こういうプロジェクトの成果には理論面と実践面とがあると思うんですけど、理論面での貢献というのは大きく二つあります。一つは評価の視点です。教育委員会の方たちや学校の校長先生が「トランスランゲージング・レンズ」という言葉を使ってお話をされていて私はびっくりしたんですけど、今までは日本語ができない子どもが日本語指導を受け、その日本語が日本語のネイティブ・スピーカーにどのくらい近づくかという観点の評価が中心だったと思います。ところがこのプロジェクトでは、彼らが持っている複数にまたがった言語リソース、日本語もそのうちのリソースの一つになるわけなんですけど、それ以前に

持っているリソースなどを全部活用して評価するのです。この視点の転換というのが非常に大事なところだと思います。モノリンガルの世界からマルチリンガルの世界に一步踏み入れたということです。でもそれが、このプロジェクトの初めに言われていた「教科学習言語能力」とどういう関係にあるのかなど、明らかにしなければならないことはありますが、ここまでマイノリティの子どもを中心に、彼らが持つ資源を生かそうという努力をした子ども用のアセスメントはまだないと思います。ですから、これは国際的な貢献でもあると思います。そしてこれに高校を加えることによって、海外でマルチリンガル環境に育つ補習授業校の子どもたちの言語能力の評価ツールにもなりうるということです。私はたまたま補習校の校長をしているので、これは大変な朗報だと思うわけです。

次にもう一つの理論面の成果ですが、今日は、野口先生から妥当性の検証の方法についてきちんと私たちにわかるように説明していただけて本当によかったと思います。やはり子どものことばのアセスメントになると、ここまで検証をしっかりとやったのは今までに私は見たことはありません。ですからこの点でも国際的な貢献になると思います。

実践面では、やはり一番私が今日感心したのは小島先生の「研究のための研究にしない」という姿勢ですね。何か一つ活動するにしても、波及効果として教師・支援者のスキルアップや指導のヒントおよびネットワーク作りを考えるという姿勢が素晴らしいですね。これはこのプロジェクトの宝物だと思います。参照枠の検証のために、DLAの対話の動画を作成し、それを全国規模で使用、DLAを普及させるのに大変な効果を上げてくださいました。またその動画は、子どもの言葉を引き出す教師のスキルが大事なことがよく分かるもので、今後改訂DLAガイドラインを作ったり、教師研修をしたりするときのツールになる貴重な資料になるものだと思います。プロジェクトに関わった皆さんがものすごい忙しい思いをされた1年だったと思うんですけど、それだけの価値はあったと思います。

私個人としては、今後の企画の中に、DLAの改訂を入れてくださって、こんなに嬉しいことはありません。DLAは、対話型であるということと、それからスキャフォールディングできる型であること、つまり「子ども自身ができること」、「助けがあってできること」、「1人ではできないこと」の見分けがつくということです。対話型、スキャフォールディング型であることで子どもを生かすことができると思うので、またこれ以外にまだ子どもの言葉の力を見る方法は他にないと思うので、DLA改定できるチャンスを与えてくださったことに感謝します。また皆さんと一緒に働けることも、大変嬉しいことです。大変実りの多い報告会だったと思います。ありがとうございました。

3) 第3回の会議について

<要旨>

一般公開形式で開催しました（資料3-1開催案内）。

- ・開催日時：2025年2月15日（土）11：00～17：30
- ・会場：東京外国語大学府中キャンパス内（対面のみ）
- ・出席者：308名（推進委員：38名、WG校先生：10名、文部科学省：4名、東京外国語大学関係者：3名、一般参加者（取材者含む受付にて確認済み人数）：224名、ポスターセッション発表者（除WG校先生）20名、事務局：2名、学生サポーター：7名）
- ・配布資料：文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」パッとわかるまるわかりガイド、当日のプログラム（資料3-2）、「ポスターセッション」及び「語らいの場」に関わる一覧表

＜当日の様子＞

晴天に恵まれた去る2月15日土曜日、文部科学省委託「日本語能力評価方法の改善のための調査研究」事業推進会議が府中キャンパスにて、一般公開として開催されました。当日は関係者含め300名以上の参加者が集い、多文化多言語の子どもたちの年齢に伴う認知的な発達を支えることばの力を捉えるための『ことばの発達と習得のものさし』（ことばの力のものさし）の船出を見守りました。

当日のプログラムは3部制。

○午前の部



東京外国語大学 林佳世子学長 挨拶



文部科学省総合教育政策局国際教育課
中野理美課長 挨拶



本事業概要、「ことばの力のものさし」ができるまでと本事業に関わる成果物を紹介しました。

報告者 小島祥美 事業推進委員長

櫻井千穂 CAN-DO作成部門長

○午後の部

午後の部では、「ポスターセッション」、「語らいの場」の2つのプログラムを行いました。

ポスターセッションでは、全国の先生方から「ことばの力のものさし」を用いた27の実践が報告されました。学校現場等で実践された現役の先生方と参加者間では、活発な対話や交流が行われました。



教科につながる指導・算数の実践報告



教科（道徳）の実践報告

「語らいの場」では多彩な事業推進委員主宰のもと、14のテーマにわかれて進められました（入替制、2回実施）。



テーマ①「母語も日本語も、大事です。」

子どもの母語の重要性について、中島和子先生に次々と質問が寄せられました。



テーマ⑥「高校ワーキンググループ・校長サミット」

多文化多言語の生徒が多く在籍する高校の学校長と教育長（岐阜県）からは、各学校での実際の実践等が紹介されながら、参加者との意見交換が行われました。



テーマ⑧「高校での実践、もっと語ろう。」

4つの高校が学校別にブースをつくり、各学校での授業内容やそこでの生徒の成長のようすなどが具体的に紹介されました。



テーマ⑩「小学校での実践、もっと語ろう。」

参加者全員のお顔が見えるように円形になって座り、意見交換が進められました。

事後に、事業推進委員およびポスターセッション発表者を対象にアンケートを行いました。その回答については、資料3-3、3-4を参照ください。

2. 成果物の作成について

本事業の成果物として、6点を納品できるように準備をすすめました。

(1) 文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」 (ことばの力のものさし) 実践ガイドについて

- ・多文化多言語の子どもの日常の様子やさまざまな評価ツール（DLAを含む）を通してことばの力を捉えるための指針となる「ことばの力のものさし」の冊子を作成しました。本冊子には、基盤となる評価と教育の理論や「ことばの力のものさし」の使い方をわかりやすく示した上で、年齢枠・ステージ別の記述文を一覧で見られるようにマトリックス形式で提示しました。
- ・記述文に対応した効果的な教育実践事例を、年齢別（学校種別）に28事例提示しました。また、学校全体で取り組んだ2校の実践事例も加えました。多文化多言語の生徒が多数在籍する中学校と少数在籍する高等学校の実践事例です。
- ・ことばの力と教育実践例との関係がひと目でわかる成果物を提示することにより、学校教育現場で教育に携わる教員等に対し、子どもことばの力を包括的にみた上で、指導計画を立てる視点を伝えることをめざしました。

(2) 文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」 (ことばの力のものさし) パッとわかるまるわかりガイド編（リーフレット）

- ・「ことばの力のものさし」について、「聞く・話す」「読む」「書く」別に、ステージおよびステップ別の記述文を一覧で見られるリーフレットをA4サイズで作成しました。
- ・2025年2月15日に開催した事業推進委員会議（一般公開）では、このリーフレットの活用方法を紹介しました。

(3) 文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメントDLA

- ・2014年発行の「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」を基に作成しました。
- ・「ことばの力のものさし」が開発されたことから、「JSL評価参照枠」を廃止しました。
- ・現行のDLAは、一対一の対話型アセスメントを行うことにより、より詳細かつ動的に子どものことばの力の実態を把握できるというメリットがある一方で、開発者の意図とは異なる形で理解されていたり（ステージ6より高いレベルに日本語母語話者の日本語力がある、話す・読む・書く・聴く全てのアセスメントを実施しなければならない、日本語の知識が獲得できたかどうかをチェックするテストとして使用される等）、DLAの示す評価の信頼性が担保されていないという課題がありました。
- ・そこで、教育現場にとってわかりやすい説明を加筆すると同時に、一定時間内に対話で実施する形式にそぐわない（実施方法の妥当性検証がなされていない）「書く」と「聴く」のアセスメント及び評価の信頼性を担保できていない診断シートを削除しました。同時に、DLA〈話す〉の名称をDLA〈聞く・話す〉に変更しました。
- ・多文化多言語の子どもの母語（継承語）でのアセスメントの実施を求める教育現場の声が高まっていることから、JSPS基盤(B)21H00538の成果物の一つである多言語DLAを含める形で、DLA〈はじめの一步〉と〈聞く・話す〉を多言語DLAとして、ポルトガル語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、英語、ネパール語、ロシア語の8言語を加えました。
- ・高校生にも応用できるように、DLA〈聞く・話す〉と〈読む〉をマイナーチェンジしました。

（４）DLAの実施方法を示した研修用DLA動画「DLAワンポイントレッスン」

- ・2023年度作成した研究資料としてのDLA動画（5年齢枠×6ステージの30本）のうち、子どもの肖像権や個人情報保護の課題がクリアになったものを再編集し、DLAの実施方法を示した研修動画として制作しました。
- ・DLAのポイントやコツをわかりやすく伝えるため、DLA実践者の実施方法に着目した解説動画としました。動画は「はじめの一步」「聞く・話す」「読む」別で計3本制作しました。
- ・2023年度の動画撮影の段階で、子ども本人と保護者から研究における使用に関する承諾は得ていますが、別目的での使用となるため、協力者である各教育委員会と協働して取り組みました。
- ・子どもの個人情報保護の観点から、公開及びアクセス制限の方法に関して事業終了後に著作権者となる文部科学省と協議した結果、アクセス制限することとしました。



（５）効果的な授業実践例を収めた教育実践動画「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等の学びにつなげる授業実践ワンポイントレッスン動画」

- ・2024年度に取り組んだ質的研究のなかの52の実践について、実践希望者から提出された実践プランのうち、モデルとなりうるプランを選定して動画撮影しました。
- ・学びにつなげることができる授業実践のコツについて授業動画を編集し、ワンポイントレッスン動画として1本にまとめました。
- ・子どもの肖像権や個人情報保護の観点から、公開及びアクセス制限の方法に関して事業終了後に著作権者となる文部科学省と協議した結果、アクセス制限することとしました。

（６）2023～2024年度文部科学省委託事業「日本語能力評価に関する調査研究」成果報告書

- ・研究成果の効果的な社会還元を図るため、研究のプロセスを含めた2年間の軌跡と研究成果をまとめた報告書を作成しました。
- ・広く社会に普及し還元していくために、簡単にアクセスできる方法として本事業の事務局を設置した東京外国語大学多言語多文化共生センターのホームページにアップできるように準備しました。

3. 評価WS-A協力者一覧

6か月に及ぶ評価WS-A（通称：30本ノック）にご参加くださった皆様に、心から感謝を申し上げます。最後までご協力くださった172名のうち「お名前の掲載可」の方について、以下掲載いたします（五十音順／敬称略）。

青木麻衣子	明石智子	天野泰世	荒木和子	生田佳澄	伊澤明香
井澤美智子	石岡佳子	石谷泰枝	和泉元千春	伊藤亮子	稲澤江里
井上一恵	岩沢久美子	馬橋宏和	浦久仁子	江口修三	大島カーリン
大菅佐妃子	大隅紀子	大坪美奈子	岡田美貴	小川珠子	小川登志
奥村あゆみ	小野木政子	小野則子	小野高明	角有紀子	門脇薫
金箱亜希	川上さくら	川崎敏子	川田麻記	菊池寛子	北場夏紀
北洋輔	京極実香子	小枝冬実	小島祥美	小段真代	小林エリカ広美
小林くに子	小林幸江	駒場温枝	近藤達也	近藤菜穂子	近藤凜子
齋藤安奈	坂本裕美	坂本由美子	櫻井千穂	佐々木もも	笹野口紀子
佐藤律子	佐野愛子	佐屋麻利子	澤田直子	式部絢子	重井アマンダジメネス
重枝光子	柴倉映子	嶋村美和	清水恵子	清水寛子	下平菜津美
下山知子	新屋敷恵美子	須貝遊	関根摂子	戚美羽	相馬由希
高木志保	高橋亜紀子	高橋沙和	高橋美奈子	田川ひかり	田口香奈恵
ダグラス昌子	嶽肩志江	竹口智之	田嶋麻理子	田代奈緒子	立山愛
田中直美	田中奈季	田中瑞乃	田中有美	田辺ひかり	種田健太郎
田村恵	辻良一	土屋孝子	筒井昌子	坪内志栞	富田裕子
内藤樹里	中石ゆうこ	長岡祥乃	中尾ちひろ	中川美佳子	中村シャンド清夏
西尾淳	西村常裕	西森恵子	新渡戸由実	野入はる香	野寄晴子
萩尾かつら	波多野濤	花島健司	花立綾里	原田紗妃	原野佳奈
東恵子	樋口尊子	平野成美	平吹洋子	平山あおい	深見麻衣
吹原豊	福井薫	藤田知美	藤田牧恵	藤本真理子	藤原祥加
藤原憂子	船津晶代	保谷律子	本田明子	本田美佳	前田和佳子
牧原紀子	真嶋潤子	増尾恵美子	増谷由里佳	松尾亜由美	松崎かおり
松本友美	松本美穂	丸山多賀子	三浦加奈子	三浦正博	光田展子
南崎亜樹彦	宮ヶ迫ナンシー理沙		宮崎ストレスレ梓	三好理奈	三輪聖
村竹洋子	村田淳子	森山 玲子	八木裕子	柳下知慧	家根橋伸子
矢部まゆみ	山内美奈子	山岸道明	山口明美	山下直子	山田祐美
山本クララ	ユン有子	横溝亮	吉田貴子	吉田美穂	与縄友子
李光曦	和田さとみ	渡辺幹子	和唐美恵		

4. 評価WS-B協力者一覧

全国各地で開催された評価WS-B（通称：地域別ワークショップ）にご参加くださった皆様に、心から感謝を申し上げます。各WSにおいて最後までご協力くださった「お名前の掲載可」の方について、以下WS別に掲載いたします（いずれも五十音順、アルファベット順／御自身希望のお名前で掲載／敬称略）

<青森県開催分 2023年11月12日&12月3日>

石塚ゆかり	内海ゆかり	小山田由佳	木村恵子	工藤美由紀	栗橋邦雄
笹森圭子	高島明音	武一美	田中久絵	田中真寿美	原倫子
藤泉	藤本徹	細越周作	村田美紀子	村元治	

<山形県開催分（オンライン） 2024年1月21日&27日>

伊藤礼子	今泉智子	大竹幸恵	栗田順子	黒崎敬子	小嶋俊之
齋藤昭子	笹平恭一	佐藤菊子	ナクロヒナ創	古林秀美	松本恵美

<神奈川県横浜市開催分① 2023年12月2日&3日>

石垣尚子	オリエズ真樹子	香川麻理	菅原恭子	相馬七海	立上芳
鶴田航大	中村詩史	濱本雅之	藤島智子	古屋恵子	松本理央
三宅達三	谷貝あいり				

<神奈川県横浜市開催分② 2023年12月9日&10日>

飯田あゆみ	一森恵	遠藤太郎	奥村匡子	栗栖佳代	小池晴華
小林秀幸	小森清美	権野禎	菅原恭子	鈴木雪音	平明子
平良ルイス	高山由一	田口藍衣	立上芳	田中由美子	手塚成隆
土肥絹恵	生田目紀子	濱本雅之	樋口未知留	古田ひより	三田典子
森下姫代子	山口由紀	山屋頼子	渡部彰	Niramol Rawinan	

<神奈川県横浜市開催分③ 2024年1月27日&2月3日>

阿部志織	上野愛里	大槻章子	絹村和美	栗田実里	小島祐子
小林秀幸	権野禎	斉藤紀子	重山陽子	菅原恭子	鈴木智子
中村志乃	濱本雅之	古谷裕子	古屋恵子	Niramol Rawinan	

<東京都開催分 2024年2月11日&12日>

荒木正悦	入倉眞佐子	岩品雅子	片桐優子	河上加苗	佐々木良造
佐藤尚子	佐藤直子	嶋原耕一	志村ゆかり	鈴木智子	田中あや
藤井祥宏	前田史子	持丸邦子	森下姫代子	森田由紀子	諸隈良子
柳沢美和子	Niramol Rawinan		Schultz Niko Catharine Watanabe		

<愛知県西尾市開催分① 2023年12月26日&27日>

青木愛	安藤望	飯田あゆみ	飯田弘子	今村百花	江本有美
-----	-----	-------	------	------	------

川上貴美恵	金原美奈子	高保芳	ゴー ティ トウ フォン	古賀海慧
小塚康久	佐橋志保子	篠原祐子	下村晴彦	城間かおり
張意娟	ヒュン ティ	トラック ハー	藤井マリア	牧みどり
吉川公晴	ラソナベ	レイドウルーデキナ	ラックサマナ弘子	山田久子
Kharen Adhalia	Situmeang		Vu Thi Tho	

<愛知県西尾市開催分② 2024年3月26日&27日>

アパリス ジェリカ	荒木勇	飯田弘子	石川百風	石躍ナミエ	泉恭子
市村祐紀	伊藤みき	稲垣智大	稲葉厚介	ヴ ティ ト	江本有美
糟谷正幸	カレン アダ	ハリア シトゥメアン	川越大希	古賀慎二	小嶋輝久
榊原範佳	椎野十夢	シマブク	アンドレッサ リエ	須江みれい	杉浦強志
杉浦梨央	高保芳	為シンチア	為ファブリシオ		チョウ イーエン
中西フェルナンダ	ヒュン ティ	トラック ハー	福岡博司	藤井マリア	水谷みゆき
与謝野ニーナ	吉川公晴	ラソナベ	レイドウルーデキナ	ラックサマナ弘子	

<愛知県開催分 2024年1月10日&20日&24日>

久保田裕子	長縄莉歩	夏目礼子	深尾聡	福丸純子	遊佐美和子
-------	------	------	-----	------	-------

<岐阜県開催分 2023年11月23日&26日>

青山岳史	荒谷恵美	飯田英樹	泉恭子	大口裕子	大澤日奈子
小川裕美	奥村綾	尾関理恵子	越智さやか	越智さや香	絹村和美
倉田紗雪	倉地洋子	後藤一樹	菰田さよ	佐橋志保子	田頭まや
高野直子	辻本倫子	戸塚真希	中島由利子	羽賀順子	花木三重子
林由佳	松田章子	山田久子	山田美貴	善本安子	米勢治子
若原俊和	鷺見靖子				

<大阪府開催分 2024年1月27日&28日>

青木麗奈	青山由佳理	赤城龍一	朝井尚子	安部正子	池浦紗綾佳
井出綾乃	岩井恵理子	江口清子	江藤恵美	大橋未希	小笠原順
桶河優子	尾関はゆみ	音田恵子	蔭山育子	加藤恵美子	上出仁美
川端有美	喜舎場直子	栗栖佳代	郡知子	小西三枝	古村由紀
酒井春菜	皿池敏江	皿井真紀	篠原結花	住徳沙弥香	翟羽佳
田中伶弥	千原愛子	坪井牧子	田慧昕	永田有香理	野瀬裕子
前川美保	真嶋潤子	三木知津子	村上自子	森典子	山内眞美

<広島県開催分 2023年12月3日&10日>

天野博子	上村貴世子	上森美奈	占部美樹	王丹	木村幸子
木本理恵	鯉淵純子	高橋直樹	立間千華	民里美姫コリン	堤紀音
テナント彰子	橋本優香	福田章子	寄原洋子		

<山口県開催分 2023年12月17日>

井内俊美	池田佐智恵	國繁菜実子	兒玉三恵子	高井かおり	高畑志津子
中岡久恵	難波えみ	弘中真紀子	福田真枝	溝部真有美	山本貴子
吉田教子					

<福岡県開催分 2024年3月2日&3日>

石川恵美子	口脇明子	染原有美子	中村玲子	和田玉己
-------	------	-------	------	------

<大分県開催分 2023年12月15日>

麻生憲子	大波多かをる	岡野陽子	小野ヤーナ	上石恵爾	木許えりな
清原満	楠晶	黒岩真奈美	小西愛	紺田優子	財前由美
佐伯麻加	佐藤大志	其田信子	高橋貴子	田島聖美	田中利佳
戸田祐太	仲村浩一	野村智子	長谷部直美	羽田廣子	平瀬倫后
本田留美	松屋かおる	丸尾直彦	水取幸恵	村上久美	八坂博美
矢野治郎	山本真吾	吉本研二			

<沖縄県開催分 2023年12月2日&3日>

伊藤香織	岩市歩	牛島千尋	大城莉子	大仲るみ子	香取むつみ
北上田源	小池美砂緒	島袋弘望	シュショウイン	平良ゆかり	玉城莉月
天願千里佳	渡真利聖子	ナガハマクミコ	南有規子	矢野珠美	山口枝梨佳
Luciana Mika Kato					

<大分県・沖縄県開催分（オンライン）2024年2月12日>

薄里美	大浜ひかる	加藤淳子	金山珠実	桑戸孝子	銭坪玲子
園田昌世	平良ゆかり	田尻由美子	天願千里佳	當房詠子	柝原玲子
中山舞	羽野美佳	矢代洋子	安田享子	矢野珠美	横山小織
吉田優子	吉平正美				

<全国・拡大版（オンライン）開催分 2023年10月29日&11月11日>

伊藤桜子	伊藤則子	上野愛里	上野あかり	王睿琪	大谷実里
越智さや香	川口輝司子	川人裕美	岸みどり	城戸寿美子	絹村和美
栗栖佳代	黒崎敬子	小島祐子	呉静妍	権野禎	浄法寺元子
白濱小恵子	圖子希代子	関井朱美	谷口佳子	當房詠子	仲由布子
仲上馨子	永田晶子	中野あすか	中村玲子	難波順子	西上紀江子
野口道子	野田武子	早瀬郁子	古川一美	古川翠	古橋水無
古谷隆司	星井直子	松田真紀	松村知美	水井直光	水島洋子
宮野宏子	山岸みどり	山士家美幸	山梨仁美	山根泰延	吉岡うらら
吉澤純子	吉田早希				

<非公開開催分①東京外国語大学（学生）>

相原加奈子	飯塚歩美	植草涼香	臼井瑞貴	大石侑紀	大坪莉佳子
神谷晴香	河野愛加	菊谷真理	北島成愛	小島洋明	下田光沙
高田美登里	竹中俊輔	田中千笑	千原菜々美	陳梓洋	鳥海涼香
長谷川魅久	秦悠希奈	坂東あかね	ベウオンソク	細貝夢南	前澤仁那
前田夏紀	松野叶	真弓空	三浦あいか	村上芽生	森弘春香
吉朝彩乃	吉澤敬子	吉田梨花			

<非公開開催分②上智短期大学（学生）>

天野美咲	稲熊珠海	大久保奈穂	片山智理	熊野希映	柴山詩絵
島田愛	高木美穂	田村愛奈	永浦華凜	西澤瑞姫	平井ゆうか
平野なつみ	廣川佑茉	北辰心渚	星野美怜	森山理子	山田絵里加
山田帆南					

<非公開開催分③愛知教育大学（指定講座受講者）2024年2月17日&18日>

稲熊奈々美	笠松千尋	倉地洋子	黒川美紀子	佐藤久美子	篠原祐子
田中真弓	生田目紀子	福田しのぶ			

5. 実践協力者一覧

「ことばの力のものさし＜暫定版＞」に基づく評価と教育実践の効果検証にご参加くださった皆様に、心から感謝を申し上げます。（52の実践事例順・事業推進委員名含む／敬称略）

菊池 寛子	高 保芳	シマブク アンドレッサ リエ	戚 美羽	為ファブリシオ	
中西フェルナンダ		下山 知子	浦 久仁子	青木 麗奈	堀 太一郎
大菅 佐妃子	亀久 保裕之	佐々木 しのぶ	澤田 直子	野入 はる香	浦 久仁子
荒木 和子	井手 沙也香	伊藤 美智代	江口 修三	田辺 ひかり	鈴木 優子
村竹 洋子	重枝 光子	岡田 美貴	坂本 裕美	田村 恵	藤山 陽子
花立 綾里	永塚 史穂	本谷 優果	ヴ ティ ト	小貫 大輔	齊藤 奈月
天願 千里佳	高橋 美奈子	松本 友美	今澤 悌	山下 直子	花島 健司
藤田 知美	藤原 憂子	横溝 亮	早川 和希	浦地 弘典	丸山 多賀子
松崎 かおり	東 恵子	角 有紀子	八木 裕子	矢部 まゆみ	生田 佳澄
吉田 貴子	南崎 亜樹彦	北場 夏紀	青山 岳史	重井アマンダ ジメネス	
坂江レアンドロ ユウキ		馬木 照子	近藤 利恵	各務 眞弓	佐野 愛子
川田麻記	井川 和子	宮下 智子	大西 奈津	田川ひかり	立山 愛
加島 和貴	向井 秀介	唐谷 ゆふ	和田 さとみ	井関 真希	山端 佳子
立石 虎太郎	甲田 菜津美	森山 玲子	大村 昭友	森田貴子	門脇 薫
鐘ヶ江モンターク 直美		松尾 馨	三輪 聖		

6. イラスト協力者一覧

本事業成果物作成にあたっては、評価WS-AおよびWS-Bの協力者に、「僕と私の未来～こんな街や社会になったらいいな」というテーマでのイラストおよびそのイラストに込めた思い（説明文）を募りました（資料3-5）。期間は、2025年10月1日から12月2日までの2か月間でした。その結果、全国から計58作品が届きました。いずれも素敵な作品ばかりであったため、応募作品すべてを本事業成果物内で紹介することといたしました。そして、応募いただいたすべての方に、本事業推進委員長から感謝の気持ちを込めて感謝状を贈りました（資料3-6）。

応募下さった皆様に、心から感謝を申し上げます。以下、本事業成果物別にイラスト協力者を掲載いたします（順不同、敬称略）。

●文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得のものさし」（ことばの力のものさし）実践ガイドに掲載分

表紙	蔡 雨飛 王 晨好
裏表紙	伏見 花
理論編表紙	ティネット ラヌカ
実践編表紙	西谷 勝男
応用編表紙	エマン ウメ

●文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメントDLAに掲載分

表紙	ホンダ ラモス ソフィア ユナ	イ・シオン
裏表紙	鈴木 裕海	
第3章多言語DLA	ポルトガル語	佐藤 タリタ
	中国語	岡本 明香
	フィリピン語	木寺 ゼイエ
	ベトナム語	ヴー ハー アン
	スペイン語	パロメケ アドリエリ
	英語	林 アリシャ
	ネパール語	ラナ サーヤ
	ロシア語	ボン ニー タン

●2023～2024（令和5～6）年度文部科学省委託事業日本語能力評価方法の改善のための調査研究報告書に掲載分

表紙	オウイシ タツシ	田原 ユウキ	バスネット アヤン
裏表紙	グルン エンドリヤ	チャン シリウス ハビン	佟 雯博
序章	しゅう ゆうちえん	ソーザ ヒガ ガエル	タジロ
第1章表紙	権 妍茜	じゃびーぬ あいしゃ	
第1章資料編	中野 マユミ	ハンナ タウン ニ アン	アリアル アクリシャ
第2章表紙	グエン ティ ディーウ ハン	董 芳沢	メトリヤ ペレラ
サバイバル（来日直後）の日本語学習	アイン ズウン	チャン ソフィー ユビン	古庄 ハルミ
小学生	王 梓萌	権 壬君	カジモト アイカ

中学生	持田 ユミ	パミンチュアン エンジェル トウイニー エリザガ
	ユナ・サンタテレサ	ハウディアン メリアン アバティエス
高校生	ウエルタス エディソン	久保山 ヒヨリ
海外	ジャネリロ マリナ	寺北 彩香理 藤田 新太
第2章資料編	レ デュー リン	橋本 周樹 ブレッシン ティン タニ パー
第3章表紙	小島 大和	トゥーバ タスニム ジャハン 山根 李奈
第3章資料編	木村 美杏	小谷 美月 ディ オリベイラ ブライアン ケンジ
関係資料	木村 颯介	デロスアンヘレス アンドレア グルン ヌエス

資料編



子どもたちが平和にすごせますように。ちきゅうをたいせつに！

防災について、勉強していて、災害が起きても、みんな、生き残れるように。と願ってかきました。



大きくなったらNBAプロバスケットボールのせんしゅになりたい。

日本語能力評価方法の改善のための調査研究事業

事業推進会議

一般公開

会場
日時

東京外国語大学 府中キャンパス

2025年2月15日(土)

11:00 ~ 17:30
START END

本事業は子どものもつすべてのことばに光をあてる評価づくりをめざして、2023年度から取り組んでまいりました。その成果を報告する「事業推進会議」を一般公開で開催いたします。

本事業にあたっては、小中高校の先生方をはじめ、多文化多言語の子どもにかかわる多くの方々にお力添えいただきながら進めてまいりましたので、ご協力いただいたすべての皆様に感謝の気持ちを込めて、企画いたしました。皆様のご参加をお待ちしております。

🪑 プログラム 🪑

*本事業推進委員の肩書等は裏面参照

< 午前の部 > 11:00~12:30 @アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール

開会挨拶 ...林佳世子(東京外国語大学 学長)

司会進行 伊東祐郎

1. 本事業の目的・趣旨 ...中野理美(文部科学省 総合教育政策局 国際教育課長)

2. 本事業の概要 ...小島祥美(事業推進委員長)

3. 「ことばの力のものさし」ができるまでと 成果物の紹介

...櫻井千穂(CAN-DO作成部門長) 佐野愛子(CAN-DO作成副部門長)

中島和子(DLA改訂部門長) 野口裕之(データ解析部門長) 小島祥美(教育実践部門長)

< 午後の部 > 13:30~17:30 @アゴラ・グローバル & 研究講義棟 1F

4. 「ことばの力のものさし」× 全国の実践者による20のポスターセッション

5. 本事業推進委員(2024年度)との語らいの場。

(順不同)

①母語も日本語も、大事です。 ...中島和子 小貫大輔

②100万回ボチの分析、お話しします。 ...野口裕之(櫻井千穂 佐野愛子)

③思い出の30本ノック。 ...櫻井千穂 佐野愛子 小島祥美

④トランスランゲージング・レンズ。

...真嶋潤子 伊東祐郎 小林幸江 伊澤明香 松田真希子

⑤つながろう、全国の指導主事!

...今川美幸 大菅佐妃子 大野裕里子

大山聡 小西三枝 橋本康秀 山岸道明

⑥高校ワーキンググループ・校長サミット

...大西俊猛 杉本明隆 竹本俊穂 吉田益穂

⑦西成高校のホンキ、お話しします。 ...山田勝治 肥下彰男 森ゆみ子

⑧高校での実践、もっと語ろう。

...大阪わかば高校 & 東濃高校 & 衣台高校 & 足羽高校の先生方

⑨中学校での実践、もっと語ろう。 ...平吹洋子 土屋隆史

⑩小学校での実践、もっと語ろう。 ...今澤悌 横溝亮

⑪プレクラスの実践、もっと語ろう。 ...菊池寛子 野入はる香

⑫公立高校入試制度、東・神奈川と西・大阪

...櫻井縁 高橋清樹 田中秀樹 北野賢一

⑬JICA × 多文化共生 ...礪貝白日 澁谷和朗

⑭東京外大 × 多文化共生 ...武田千香 小島祥美

申込は
こちら

※ 事前申込制(参加費無料)になります ※
右記QRコード(→)または以下のリンク先
より **事前申し込み**をお願い致します。

<https://forms.gle/8MRtgZr22v5WVGqN9>先着
250名

※定員に達し次第締切

<事業推進委員メンバー> (五十音順・敬称略・役職及び肩書きは任期時を示す)

阿部 新	東京外国語大学大学院 国際日本学研究院 准教授 (2023年度)
伊澤 明香	関西大学 外国語学部 准教授
磯貝 白日	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊事務局 参事役
伊東 祐郎	東京外国語大学 名誉教授/国際教養大学専門職大学院 特命教授
今川 美幸	兵庫県教育委員会 人権教育課 副課長
今澤 悌	甲府市立大岡小学校 教諭 (2024年度)
榎井 縁	藍野大学 医療保険学部理学療法学科 教授
大菅 佐妃子	京都市教育委員会 学校指導課 副主任指導主事
大西 俊猛	大阪府立大阪わかば高等学校 校長
大野 裕里子	西尾市教育委員会 学校教育課 指導主事 (2024年度)
大山 聡	神奈川県教育委員会 子ども教育支援課小中学校生徒指導グループ 指導主事
小貫 大輔	東海大学 国際学部 教授
菊池 寛子	西尾市教育委員会 日本語教育指導アドバイザー
小島 祥美	東京外国語大学 世界言語社会教育センター 准教授/多言語多文化共生センター長 *事業推進委員長 *教育実践部門長
小西 三枝	芦屋市教育委員会 学校教育室学校支援課 主査
小林 幸江	東京外国語大学 名誉教授
小山 幾子	豊田市教育委員会 学校教育部 学校教育課 課長 (2023年度)
榊原 英一郎	西尾市教育委員会 学校教育課 指導主事 (2023年度)
櫻井 千穂	大阪大学大学院 人文学研究科 准教授 *CAN-DO作成部門長
佐野 愛子	立命館大学 文学部 教授 *CAN-DO作成副部門長
澁谷 和朗	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 東京センター市民参加協力第一課 課長
嶋原 耕一	東京外国語大学 世界言語社会教育センター 講師 (2023年度)
杉本 明隆	愛知県立衣台高等学校 校長
高橋 清樹	認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ 事務局長
ダグラス 昌子	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 名誉教授
武田 千香	東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授
竹本 俊穂	福井県立足羽高等学校 校長
田中 秀樹	神奈川県教育委員会 教育局指導部高校教育課 国際・情報教育グループ 指導主事
土屋 隆史	横浜市立横浜吉田中学校 副校長 (2024年度)
中島 和子	トロント大学 名誉教授 *DLA改訂部門長
野入 はる香	豊田市立保見中学校 教諭
野口 裕之	名古屋大学 名誉教授 *データ解析部門長
橋本 正司	大阪府教育委員会 教育長 (2023年度)
平吹 洋子	豊田市教育委員会 豊田市外国人児童生徒等サポートセンター 教育アドバイザー
堀 貴雄	岐阜県教育委員会 教育長 / (代理出席) 橋本 康秀 高校教育課 指導主事
真嶋 潤子	国際交流基金関西国際センター 所長/大阪大学 名誉教授
松田 真希子	東京都立大学 人文社会学部 教授
水野 達朗	大阪府教育委員会 教育長 (2024年度) / (代理出席) 北野 賢一 教育振興室高等学校課 首席指導主事
三輪 聖	チュービンゲン大学 人文科学部 アジア地域文化研究所・日本学科 専任講師
山岸 道明	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 副校長 (2024年度)
山田 勝治	大阪府立西成高等学校 校長
横溝 亮	横浜市教育委員会 学校教育企画部 小中学校企画課 日本語支援担当指導主事
吉田 益穂	岐阜県立東濃高等学校 校長

<事務局>

小段 真代	東京外国語大学 多言語多文化共生センター
増谷 由里佳	東京外国語大学 多言語多文化共生センター

日本語能力評価方法の改善のための調査研究事業

事業推進会議

一般公開

会場
日時

東京外国語大学 府中キャンパス

2025年2月15日(土)

11:00 ~ 17:30
START END

本事業は子どものもつすべてのことばに光をあてる評価づくりをめざして、2023年度から取り組んでまいりました。その成果を報告する「事業推進会議」を一般公開で開催いたします。

本事業にあたっては、小中高校の先生方をはじめ、多文化多言語の子どもにかかわる多くの方々にお力添えいただきながら進めてまいりましたので、ご協力いただいたすべての皆様に感謝の気持ちを込めて、企画いたしました。どうぞ宜しくお願いします。

プログラム

*本事業推進委員の肩書等は裏面参照

< 午前の部 > 11:00~12:30 @アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール

開会挨拶 ...林佳世子(東京外国語大学 学長)

司会進行 伊東祐郎

1. 挨拶 本委託業の施策における位置付けと研修成果へ期待すること ...中野理美(文部科学省 総合教育政策局 国際教育課長)

2. 本事業の概要 ...小島祥美(事業推進委員長)

3. 「ことばの力のものさし」ができるまでと 成果物の紹介

...櫻井千穂(CAN-DO作成部門長) 佐野愛子(CAN-DO作成副部門長)

中島和子(DLA改訂部門長) 野口裕之(データ解析部門長) 小島祥美(教育実践部門長)

< お昼休憩 > 12:30~13:30

※学内での飲食販売はありません。※飲食場所として研究講義棟1階「語らいの場」各講義室を利用可能です。

< 午後の部 > ※午後の部の詳細は、それぞれの【開催会場一覧】をご覧ください。

4. 「ことばの力のものさし」× 全国の実践者による26のポスターセッション

13:30~15:30 @アゴラ・グローバル内

5. 本事業推進委員(2024年度)との語らいの場。

※各ブースの参加者一覧はこちら→



15:30~17:25 @ 研究講義棟1階各講義室

①母語も日本語も、大事です。 ...中島和子 小貫大輔

②100万回ボチの分析、お話しします。

...野口裕之(櫻井千穂 佐野愛子)

③思い出の30本ノック。 ...櫻井千穂 佐野愛子 小島祥美

④トランスランゲージング・レンズ。

...真嶋潤子 伊東祐郎 小林幸江 伊澤明香 松田真希子

⑤つながろう、全国の指導主事!

...今川美幸 大菅佐紀子 大野裕里子

大山聡 小西三枝 橋本康秀 山岸道明

⑥高校ワーキンググループ・校長サミット

...大西俊猛 杉本明隆 竹本俊穂 吉田益穂 堀貴雄

⑦西成高校のホンキ、お話しします。 ...山田勝治 肥下彰男 森ゆみ子

⑧高校での実践、もっと語ろう。

...大阪わかば高校: 田川ひかり 向井秀介 森山玲子 /

足羽高校: 大村昭友 / 東濃高校: 和田さとみ 加島和貴 /

衣台高校: 横井健 大西奈津

⑨中学校での実践、もっと語ろう。 ...平吹洋子 土屋隆史

⑩小学校での実践、もっと語ろう。 ...今澤悌 横溝亮

⑪プレクラスの実践、もっと語ろう。 ...菊池寛子 野入はる香

⑫公立高校入試制度、東・神奈川と西・大阪

...榎井縁 高橋清樹・大谷千晴 田中秀樹 北野賢一

⑬JICA × 多文化共生 ...磯貝白日 湊谷和朗

⑭東京外大 × 多文化共生 ...武田千香 小島祥美

学生ボランティアサークル「くりふ」 東佳奈 文字純連 柳原杏香

< ポスター展示 > 16:00~17:45 @ 研究講義棟1階 中央スペース

ポスターセッションで発表されたポスターを御覧いただけます。

<事業推進委員メンバー> (五十音順・敬称略・役職及び肩書きは任期時を示す)

阿部 新	東京外国語大学大学院 国際日本学研究院 准教授 (2023年度)
伊澤 明香	関西大学 外国語学部 准教授
磯貝 白日	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊事務局 参事役
伊東 祐郎	東京外国語大学 名誉教授 / 国際教養大学専門職大学院 特命教授
今川 美幸	兵庫県教育委員会 人権教育課 副課長
今澤 悌	甲府市立大岡小学校 教諭 (2024年度)
榎井 縁	藍野大学 医療保険学部理学療法学科 教授
大菅 佐妃子	京都市教育委員会 学校指導課 副主任指導主事
大西 俊猛	大阪府立大阪わかば高等学校 校長
大野 裕里子	西尾市教育委員会 学校教育課 指導主事 (2024年度)
大山 聡	神奈川県教育委員会 子ども教育支援課小中学校生徒指導グループ 指導主事
小貫 大輔	東海大学 国際学部 教授
菊池 寛子	西尾市教育委員会 日本語教育指導アドバイザー
小島 祥美	東京外国語大学 世界言語社会教育センター 准教授 / 多言語多文化共生センター長 *事業推進委員長 *教育実践部門長
小西 三枝	芦屋市教育委員会 学校教育室学校支援課 主査
小林 幸江	東京外国語大学 名誉教授
小山 幾子	豊田市教育委員会 学校教育部 学校教育課 課長 (2023年度)
榊原 英一郎	西尾市教育委員会 学校教育課 指導主事 (2023年度)
櫻井 千穂	大阪大学大学院 人文学研究科 准教授 *CAN-DO作成部門長
佐野 愛子	立命館大学 文学部 教授 *CAN-DO作成副部門長
澁谷 和朗	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 東京センター市民参加協力第一課 課長
嶋原 耕一	東京外国語大学 世界言語社会教育センター 講師 (2023年度)
杉本 明隆	愛知県立衣台高等学校 校長
高橋 清樹	認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ 事務局長 / (代理出席) 大谷 千晴 認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ
ダグラス 昌子	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 名誉教授
武田 千香	東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授
竹本 俊穂	福井県立足羽高等学校 校長
田中 秀樹	神奈川県教育委員会 教育局指導部高校教育課 国際・情報教育グループ 指導主事
土屋 隆史	横浜市立横浜吉田中学校 副校長 (2024年度)
中島 和子	トロント大学 名誉教授 *DLA改訂部門長
野入 はる香	豊田市立保見中学校 教諭
野口 裕之	名古屋大学 名誉教授 *データ解析部門長
橋本 正司	大阪府教育委員会 教育長 (2023年度)
平吹 洋子	豊田市教育委員会 豊田市外国人児童生徒等サポートセンター 教育アドバイザー
堀 貴雄	岐阜県教育委員会 教育長 / 橋本 康秀 高校教育課 指導主事
真嶋 潤子	国際交流基金関西国際センター 所長 / 大阪大学 名誉教授
松田 真希子	東京都立大学 人文社会学部 教授
水野 達朗	大阪府教育委員会 教育長 (2024年度) / (代理出席) 北野 賢一 教育振興室高等学校課 首席指導主事
三輪 聖	テュービンゲン大学 人文科学部 アジア地域文化研究所・日本学科 専任講師
山岸 道明	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 副校長 (2024年度)
山田 勝治	大阪府立西成高等学校 校長
横溝 亮	横浜市教育委員会 学校教育企画部 小中学校企画課 日本語支援担当指導主事
吉田 益穂	岐阜県立東濃高等学校 校長

<事務局>

小段 真代	東京外国語大学 多言語多文化共生センター
増谷 由里佳	東京外国語大学 多言語多文化共生センター

連絡先

東京外国語大学 多言語多文化共生センター ☎ 042-330-5908 ✉ hyouka-chousa@tufs.ac.jp
事業推進委員会事務局 (増谷・小段) 【ホームページ】 <https://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>

資料3-3

資料3-3 事後アンケートの回答（事業推進委員回答分／21名分）

	1. 午前中のプログラムについて、ご意見やご感想など	2. 「推進委員との語らいの場。」を実施されたなかでの新たな発見、ご感想など	3. その他、お気づきの点など
1	事業の説明（小島委員長）、成果物の紹介（櫻井作成部門長）の説明がわかりやすく、かつ思いやプロセス等が詰まったとても良いプレゼンでした。	校長サミットに参加された方は、どのような点に関心があったのでしょうか。（始まる前は聞く人があるのかな？と思っていましたが、思いのほか参加された方が多かったの）	特にないです。準備、運営お疲れさまでした。とても良い機会に恵まれたと思っています。
2	小島先生、櫻井先生のお話は内容はもちろんのこと、お二人の気持ちがあらわれたお話でとても感動的でした。	中学校の部を担当しましたが、中学校の教員よりも地域の支援者、日本語講師、大学関係者の方の方が多く参加されていました。	小島先生をはじめ関係の皆様、本当にお疲れ様でした。皆様のおかげでとても充実した一日となりました。ここまでの道のりは我々には想像もできないほどの大変さだったと思います。皆様が少しはゆっくりできることをお祈りしています。本当にありがとうございました。
3	パッション溢れるご報告ありがとうございました。	・今の行政の仕組みだと仕方ないですが、基礎自治体の指導主事への発信、市町村指導主事の育成が都道府県指導主事頼みになっているのは厳しいなと感じました。 ・指導主事にとって、改訂された内容を域内の教育委員会に、学校現場に落とし込むことの負担が大きいです。文科省から、共通に使えるパワーポイントなどの提供があるだけでも、不安感が下がると思います。「ものさし」が一人歩きすることを防ぎ、大切にしている概念を落とし込むためにも有効だと思うので、文科省と検討していただきたいです。	
4	小島先生、櫻井先生、佐野先生の熱意が込められたお話でした。パワーいただきました！	参加者の方が早く会場入りしており、何もない教室で待っていたく流れとなってしまいました。ポスターセッション後に質疑応答を受けており、移動時間が確保できず、参加者の方には大変申し訳なかったです。とりまとめをお願いされましたが、くだぐだなファシリでした笑。	大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。全国に仲間がいることを改めて再認識した1日でした。事業は終わってしましますが、ここからが学校現場で「ことばの力のものさし」をどのように生かしていくのか、持続可能な形にしていくのが問われます。東遼高校では、早速来月の合格発表日の一斉作文から、「ことばの力のものさし」を活用させていただき、「東遼版ことばの力のものさし」にしています。たぶん全国で始めに「ことばの力のものさし」活用実践をすると思います！2025年は、この3年間いただいたご縁とギフトを大切に、地に足をつけて地道に教育活動を進めていく1年になりませんが、今後とも、ぜひつながっていたいただけたら幸いです。事務局の増谷さん、小段さんにお会い出来てよかったです！いっぱいいい他の方ともお話したかったですが、必要なご縁は必ずまたつながり、必要な再会があると信じておりますので、また一番よいタイミングでつながって下さい。ご興味のある方はどなたでも東遼高校でお待ちしております！3年間、本当にありがとうございました！！！！
5	「ものさし」が作られた背景や考え方、またワークショップを通してその活用方法まで本当に分かりやすく説明いただき感激しました。	他県の主事また参加いただいた大学の先生方との交流を通して、研修のあり方、また大学と指導主事の連携について情報交換をすることができました。	本当に充実したプログラムで多くを学ばせていただきました。ありがとうございました。
6	「子どもたちのために」という思いが土台にある研究事業であり、調査研究に関わった皆様の熱意が伝わってきました。「ことばの力のものさし」をいかに現場で生かしていくかが課題です。	他地区の方と関わることで、自分の地区のよさとかたりなさを知ることができました。	
7	中身の濃い、非常に充実した内容でした。残念なのは時間が短かったことです。開始時間を早めてもう少しご報告の時間を長くとして頂けたらと思いました。	「小学校の実践 もっと語ろう」を横溝先生と運営しました。参加者が多かった事とやはり時間が足りなかったこともあり、すべての方のニーズに応えられる内容になったかどうか、少し不安です。私自身は様々な意見が出て、こちらも多くの学びを得ることができ、大変満足しています。	ここまで事業を推進してきて下さった皆さんに大いなる敬意と感謝の気持ちで一杯です。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。さぞ大変な困難な道のりだったかと推察いたします。皆様のご尽力に、ただただ頭が下がる想いでいっぱいです。ここからまた第2のスタートとなるかと思えます。このすばらしい「ものさし」を現場で生かせるよう、ぜひご尽力賜れたら幸いです。
8	ほぼ時間通り進行し、内容も分かりやすくよかったですと思います。	私はTLの部屋で参加者と語らいましたが、テーマについて参加者のお話も聞けて私自身、参考になりました。冒頭5分ぐらいにして、あとはすべて語らいでもよかったのではと思いました。	当日は盛況のうちに、ことばのもののさしのお披露目ことができました。今後、どう広めていくか。これから教育、研究の新たなステージが始まるということを感じました。
9	大変勉強となるプログラムでした。事業全体のまとめの時間もあり、その後、各学校での取組事例をポスターセッション形式で見させていただき、最後の語らいの場は多岐のテーマにわたっていたことから参加者目線のプログラムになっていたかと思います。欲を言えば、事業のまとめにかかる発表、特に「日本語のもののさし」の活用方法について、もう少しじっくりと学べれば嬉しかったです。ありがとうございました。	どんな時もそうですが、他府県の取組を知ることは、本県の支援の在り方を考える良い機会になるなと改めて実感しました。また、参加者の質問からも、本県の取組を客観視する貴重な機会となりました。大きなテーマは与えられたきましたが、査埋する私たちが取り組みやすいようなかたちだったかと思います。ありがとうございました。	余の開催、運営等にご尽力いただき、ありがとうございました。とても実りのある事業でした。事業推進委員として少しでも携わらせていただいたこと、とても貴重な経験になったと感じています。今後、本事業の成果をどう現場におとしこくか、ここで得られたネットワークを活用しながら考えていきたいと思えます。3年間、ありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。
10	改めて今回の成果物ができるまでの過程の説明を伺うことができ、大変勉強になりました。	他の自治体のいろいろな状況を知ることができ、私だったらどうするだろう、と考える機会をいただきました。大変勉強になりました。	ポスターセッションでは、どの実践も大変興味深く、全て見られなかったことが残念でした。生の声を聞くのとはもちろん違いますが、実践報告ができがあり、皆様のご発表を読む日が待ち遠しいです。貴重な機会をありがとうございました。
11	理念と研究の内実が参加者に周知され、大変良かったです。	課題や問題意識の共有を図ることが出来ました。所属が全く異なる方の発言に自身が見えてなかった課題に気づかれました。また、横につながることの大切さも改めて感じました。	活気と熱気あふれる会にしてくださり、多くのエネルギーをみなさまからいただきました。ありがとうございました。
12	ポスターセッションについての回答に書いたとおりですが、素晴らしいかったです。心が高鳴り、かつ暖かくなる、素敵な時間を共有できて嬉しかったです。	中島和子先生への質問でほぼほぼ終了しましたが、会場には私と同じように多言語多文化で子育てをされた方や、ご自身がそのような環境で育った方が多かったです。つつい日本語教師や国際教室の教師を対象に会を開く気持ちになってしまいますが、本当は「当事者」も多く関わっていること、そして「当事者」にはそれなりの真剣で深刻な問いがあり、またその問いには決まった答えもないことを、改めて強く感じました。	ポスターセッションについてのアンケートには「外国学校との意見交流会を！」と書きましたが、むしろそれは事業推進委員として書くべきことでしたね。逆にポスターセッションについては、「多言語多文化環境で子育て中の当事者や、自身が多言語多文化環境で育った当事者の集まりを！」と思います。
13		トランスランゲージングレンズを担当しました。コンテンツをもりこみすぎて、成果がびやけてしまったかもしれません。参加した人はよく知っている人、はじめて聞く人などさまざまでした。	偉大な事業がとてもいい形で成果に結びつき、良かったです。ポスター発表現場の先生たち、実践の魅力が伝わって良かったです。小島さんは大変だと思うけど、稀有な伝える力をお持ちなので、これからも発信、旗振り役をやってほしいです。おつかれさまでした！
14	「ことばの力のものさし」について新たな視点から展望を理解することができ、有意義だった。成果物が楽しみ。	「語らいの場」が開催され、伊東は、「トランスランゲージング・レンズ」を担当したが、参加された方々からの発言から、興味・関心の高さがうかがえてよかった。	とても活気のある、しかも多様な背景をもった方々の参加があって、意義のあるイベントであることを実感した。今後このようなイベントが開催されることを願っている。
15	報告された方々の熱意と、本事業の素晴らしいさと必要性が非常に伝わるプログラムでした。	今回のような、語らいつながる場が平素からあれば、初めて担当になった方や課題にぶつかったときに相談ができそれぞれの地域の取組が進む助けになると感じました。	
16	・先生方の熱い思いが込められながらも、研究のポイントが凝縮されており、とてもわかりやすい内容であったと思います。	・他の校長先生方との交流の場になり、ありがたかったです。 ・学校としての取組をご紹介できる場になり、ありがたかったです。 ・ポスターセッションもそうですが、それぞれの立場での発言・発表の機会があったことは、ご参加いただいた（一般の）方にもよかったと思います。結果として、もう少し時間があってもよかったと思いました。	・小段さん、増谷さん、お疲れさまでございました。
17	他の実践者の方の発表も聞くことができて、良かったです。また、その後、ホールの方でもポスターを掲示してくださったので、聞くことができなかった方の分も見ることができました。ポスター形式や内容も自由で、色とりどりの実践を知ることができました。自分の実践について、興味を持ってもらえたことがうれしかったです。	東京の高校の先生方と深く話せました！	

18	包括的なことばの力を含む「高校生のものさしをつくる」という歴史的な大プロジェクトに、一員として参加させていただいたことに、あらためて感謝申し上げます。	他地域の様々な立場で携わられている方々とお話させていただき、地域による体制や状況のちがいを改めて感じました。国の経済政策、移民政策によって生じている教育課題なので、今回の事業に終わるのではなく、引き続き、国の事業としてさらに進めて行ってもらいたいと思いました。	
19	この事業を立ち上げた経緯がよくわかりました。	現場の先生方が悩んでおられることに多くの共通点があることに気づきました。	
20	言葉のものさしを実際に使えるのかという不安があったが、動画を見ると日本語はできなくても子供の言葉の力を感じることができ、分かりやすかった。成果品として、子供が意欲関心を持つ授業実践の動画などがあると聞いているので、実践を大事にその成果が活用できるとよいと思う。	調査研究の中でJICAの位置づけは参加者にはわかりづらい点があったと思われ、JICA海外協力隊での日本語教師としての参加など個人のキャリアを考えてのご参加の方もいた。ただ、長野県教委、東京都教育庁などJICAとの連携を進めている、あるいはこれから進めたい方とのコンタクトができ、人と人を繋ぐ機会として有益であったと思う。	
21	感動の一言です。推進事業のスケールの大きさ、ここに至るまでの御苦労、多くの方のお力によって推進されたことなど、涙を流しながら参加させていただきました。ありがとうございました。	各教室での開催だったので、ゆっくり語らうことができました。また、個人的にご質問くださったり、今後もつながることができたり、充実した時間でした。	推進事業の事務局の皆様、運営や開催に関わられた皆様、本当にお疲れさまでした。

資料3-4

資料3-4 事後アンケートの回答（ポスターセッション発表者回答分／26名分）

1. 午前中のプログラムについて、ご意見や感想など		2. 「ポスターセッション」を実施されたなかでの新たな発見、ご感想等	3. その他、お気づきの点など
1	熱い思いを持っている人たちが、こんなに集まったんだということに胸が熱くなりました。	熱心に聞いてくださる方々のなんと多いことか！まずそこにびっくりしました。ということは、ふだん何も関心を持たれていないということだと思ってください。JSI実践校と言えどもこの始末です。ただ、今回バディに教育委員会の先生を招ませてくださったことにとても大きな意味があると、発表しながら思いました。ど真ん中で聞いてくださっていた教育委員会の先生。教員一人ではむずかしいことも今後は外とのつながり、外から校内へと仕掛けていくこともできます。わたしは常々実践だけではだめだと思っていました。小島先生が研究のための研究にしくなくとおっしゃっていましたが、わたしは実践者ですが、「実践だけじゃなくて研究もする」と思ってやってきました。が、先生方のようなつながりがないままなので、独りよがりになっていないか、不安でした。今回の発表を通して、やっていることは間違っていないと自分で確認することができ、今後ますますがんばろうと思えました。	増谷先生、小段先生、いつもありがとうございます。
2	これまでの流れや本事業の意義、関わった皆様の想いが伝わってくるとても素晴らしい内容でした。そんな素晴らしい活動に参加させていただくことができて、本当に嬉しく思いました。	どの発表も興味深く、一つ一つの発表をじっくり回る時間がもう少し欲しかったと感じました。自分自身の発表については夢中すぎてよくわかりませんが、多くの方々に温かく耳を傾けていただけて、とても良い時間になりました。ご質問いただいた内容などから、同じような悩みを抱えている先生方が多くいらっしゃる事が分かり、勇気をいただきました。	
3	先生方の発表の端々に、「わくわくした」「おもしろい結果」「わたしたち、いい仕事をたよね」～など、超ポジティブなことばがあって、きつとたくさんのご苦労があったことと思います。先生方のこれまでの取り組みと熱い思いを感じて、現場でもしっかりと運用していきたいという思いを強くしました。	ポスターセッションや懇親会等で全国の方と楽しく情報交換できたのも（歳末セールのような赤い法被を着て発表する経験も）、大変有意義でした。	のことばのものとさしや新DLAIに関して、今後、福岡市でも研修が必要だなと感じた次第ですが、今後、文科省からの研修などは予定されているのでしょうか。 また、個別の依頼…例えば、福岡市や研究会から小島先生や榎井先生などに講演していただくようなことができるとしたら、どのような手続きが要るのでしょうか。 ③包括的なことばの力を多言語（母語）も使って評価する～ということでしたが、 母語に対応できる担当者ばかりではないと思うので、福岡市小中学校の現場では、どのようにしていけばいいだろうか～？と同僚3人で淡々と話したところです。 現在も、部分的に、Google翻訳を使って、話させたり聞いたりする場面もありますが… この点について、全国の指導者等にどのように下ろしていくのだろうか～という率直な思いを持ちました。
4	「ことばの力のものさし」作成までの経緯や、作成時の苦労についてお話を伺うことができ、また、作成に携わったメンバーの方々かどのような思いで取り組まれたのかを知ることができました。 「日本語ができない子」ではなく、「日本語も母語もできる可能性のある子」という意識を沖縄で当たり前にできるようにしていきたいと強く感じました。	横溝先生のプロジェク型学習は、自分の活動と共通点があると感じました。しかし、横溝先生の実践では、子どもそれぞれの目標が明確に設定されており、子どもの意欲を引き立てる工夫がなされていました。その点において、自分に足りない部分を改めて認識することができました。	今回、このような貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。事業推進委員の方々熱い思いが強く伝わってまいりました。それと同時に、学ぶべきことがまだ多くあることを改めて認識し、今後も精進してまいりたいと考えております。小島先生をはじめ、事業推進委員の方々には深く感謝しております。重ねて御礼申し上げます。
5	これまで10数年多文化多言語の子どもに関わる中で、日本語力だけでしか力がかねないものかしと、それだけでその子を判断する教員等の心ない言葉や態度への苛立ちがありました。小島先生や榎井先生の涙は、私の心にも重なるだけでなく、子どもが泣いた涙のようにも感じました。質量共に膨大な財産をわずか二年で整えてお示し下さったことにお礼を申し上げます。そして、先生方のように私も必ず多文化多言語の子どもに還元するぞ！と誓いました。	今回実践者として発表に関わるにあたり、自らの実践を俯瞰して捉え、理にかなっていた部分と改善点の輪郭が見えたように思います。多くの方が当市の実践に熱心に耳を傾け、質問をたくさんくださったことも、今後の力になりました。また、手前味噌ですが、拠点校開設に向けてなかなか進まない自治体も多いなか、本気で推進くださった当市の先輩教師を誇りにも思いました。	言葉でうまく表せませんが、心が踊るように満足しました。拠点校で出会う多文化多言語の子どもとも今回のような心が揺さぶられる経験をたくさんしていきたいです。本当にありがとうございました。
6	事業の経過や、成果が簡潔にわかりやすく説明され「ことばの力のものさし」の理解が深まる内容であった。	外国につながる生徒と「羅生門」という組み合わせに様々な質問をいただいた。原文とリライト教材、授業の展開、生徒の成果、お聞きになられた方にわかりやすい資料提示がもう少しできればイメージをつかみやすかったと反省している。また、「ことばの力のものさし」は現場レベルで有用性があるかについても複数質問をいただいた。外国につながることの有無にかかわらず個別最適な学びの実現に向けて生徒の現在地の見取りは重要な点であることを今後も発信していきたい。様々な角度から質問や意見をいただき大変有意義な時間であった。	貴重な時間をいただきありがとうございました。2. と重複しますが様々な立場の方からそれぞれの視点で対話できたことは大変有意義な時間でした。ありがとうございました。
7		オーディエンスの方々との質疑応答・やりとりがとても勉強になりました。そのやりとりの中で新たに気づかされたこと、こんな方法もというご提案から学んだこと等が山盛りで、本当に勉強になりました。準備は大変でしたが、させて頂いてよかったと心から思います。貴重な場を頂き本当にありがとうございました。	別のアンケートに記入しました。
8	申し訳ありませんが、参加できませんでした。	今回は、ポスターセッションに参加させていただきありがとうございました。「ことばの力のものさし」を活用した実践をやらせていただき、子どもの実験を細かく把握し、それに応じた学習と指導計画を立て、実践を重ねていくことが重要だということを感じました。また、他の参加者の皆さんの実践を見させていただき、各校・各団体の取り組みや指導内容の工夫をたくさん知ることができ大変勉強になりました。今回学ばせていただいたことを必ず今後にかし、一人ひとりの子どもにとってより良い指導ができるよう努めていきます。	
9	言葉の力のものさしがどのような経緯で作成し、完成したのかがとてもよくわかった。多くの方の協力と熱い思いがあってできた素晴らしいものだと感じたので、これから現場でしっかりと活用し、周りの教員にも周知、浸透させていきたい。	ポスターセッションをして、多くの先生や教授からご意見をいただくことができた。その中でも、日本語を苦手とする子が、いかに頭の中で考え、学びを深めるための支援をするかが重要だとあらためて感じた。グループ編成や、学びたいと思えるような単元計画、そして言葉のものを活用してどのような目標まで子どもたちを伸ばしていくのかを事前に考えて授業に臨むことを意識していきたい。	全国の先生方と話をし、それぞれの地域でどのように外国にルーツをもつ生徒の力を伸ばしているのかが参考になりました。それまでの視野が狭かった授業からそれぞれの生徒が何を考え、何ができるのかを理解して一人ひとりの生徒に合った学びを定められる授業を作りたいです。貴重な機会をいただけて、本当にありがとうございました。
10	小島先生、榎井先生はじめ諸先生方の熱い思い、またこのような大プロジェクトを3年という短期間で成し遂げられたエネルギーに圧倒されました。	学習者の発達に特性があることが推測されても、学習の困難さが日本語能力の問題と混同され、適切な評価/診断を受けることが難しい事例でしたが、その部分は今回のポスター発表では触れることができませんでした。	午後のポスターセッション、分科会ともに学びの多い内容でした。ありがとうございました。

11	小島先生、櫻井先生からの「ことばの力のものさし」の作成にあたっての熱い思いが伝わってきました。中島和子先生からのコメントを聞きながら、会場にいる一人一人が実践するなかで、この「ことばの力のものさし」が生きてくるし、私自身のこれからは問われていると思いました。	実践内容に共感される方が多く、自分の実践の意味や価値について見つめなおすことができました。互いに実践交流することができ、全国に同じ思いを持つ人とつながることができ、とても心地よかったです。	本会の準備及び丁寧な連携をいただいた、事務局の皆様にご感謝申し上げます。 参加してよかったです。ありがとうございました。
12	とても充実した発表でよかったです。 櫻井先生が登壇した際のワークショップはとても楽しく参加することができました。	ポスター発表の発表者でしたが、良い意味で自分の至らなさを感じることができました。また、発表中にたくさんの方から質問やご意見をいただき、勉強になりました。他の方のポスター発表を拝見拝聴している中で、本校でも具体的な実施ができそうな取り組みがあり、とても良い学びになりました。	
13	多文化多言語の子供たちへの愛情あふれた熱い説明に感動しました。これまでの経緯もお聞きできたのはよかったです。	発表を通して、改めて自分たちが行っている事業の意義や向かう方向が見えてきたように思います。発表の後も多く質問をいただき、それにお答えする時間を費やしたため、他の発表を聞くことができなかったのは残念ですが、今後出される実践ガイドを楽しみにしています。	この場において、こうして発表の機会をいただき、多くのご意見やご質問をいただき、事務局の皆様の思いをお聞きできたことを幸せに思っています。同時に本市での今後の事業への大きな宿題をいただいた、と思っています。この2日間で得たものを仲間と共有し、来年度に向けて計画を立てていこうと思います。ありがとうございました。
14	仕事のため、午後からの参加だったので、午前中のプログラムには参加できませんでした。とても残念でした。	生徒さんも支援者側も共に成長できたこと、チームティーチングの良さなどを改めて実感することができました。	様々な取り組みやお考えについてお聞きすることができ、大変勉強になりました。懇親会では、熱いスピーチに心打たれ、刺激を受け、元気をいただきました。これからも精進していきたいです。どうもありがとうございました。
15	素晴らしい内容でした。こういうスピリットが日本の学校に広がっていくことになれば、多文化多言語の子もただでなくすべての子どもにとって望ましいことであると思われました。	私たちのチームの今回の実践そのものにはまだまだ改善するべき点がありますが、あしで発表させていただいて一つの「足跡」を残すことができて嬉しかったです。	きっと、参加者の多くが「よくやったね」、「素晴らしいかったよ」との言葉を残していると思います。今回のプロジェクトが、公立学校を主なターゲットとしていたこともよくわかります。しかし、将来的には、インターナショナルスクールや民族学校をも包摂した報告会が開けるといいます。ストレートに胸を開いて、批判的な意見も含めて、学校の「多文化化・多言語化」のもう一方の当事者との意見交換ができるといいます。
16	「ことばの力のものさし」ができるまでの経緯がとてもよく理解でき、これからこの「ものさし」を活用することの意義がひしひしと伝わってきました。改めて、この「ものさし」の作成に並々ならぬ力を注いでこられた先生方のご尽力に、深く感謝すると共に、これらをこれからはしっかりと活用し、波及させていくことへの責任を感じました。 31本ノックと実践の両方に携わらせていただいたことで、この「ものさし」の仕組みや活用方法への理解を深めることができ、また、それを自分自身の日々の活動の中に（十分ではないにしても）落とし込むことができたことで、私自身のTLスタンスが少しずつ構築されていったように思います。会議の中でも多くの参加者が感じたのではないかと思います。この事業は、取組そのものと、そこから生まれた成果物と人々の強いつながり・価値観の変容等々、さまざまな意味で、本当にエポックメイキングだと思います。 この会議に出席できたことは、私自身、本当に大きな意味があったと感じていますし、今後も、一人でも多くの多言語多文の子どものための「学ぶ権利」が守られるよう、「ものさし」をフル活用させながら、私自身も不断の努力が必要だと改めて実感した次第です。	私自身は、外部支援者として、高等学校での「特別的教育課程」のプロジェクト活動（対象生徒1名）を取り上げましたが、普段は、在籍学級での教科学習の状況は見ることができず、また情報共有も十分とは言えないのが現状です。そのため、教科とのつながりや、在籍学級との連携などの面で他の高校の取組を知ることができたのは、本当に良い学びとなりました。多言語多文化の生徒の人数が多いクラスで、どのように進めていくかといったことや、「包括的なことばの力」のステージに差がある中で、どのように生徒たちにアプローチしていくか等、先生方のさまざまな工夫を共有していただける機会がもてたので、大きな実りとなりました。本当にありがとうございました。	回答しようと思いつつも、多忙ですっかり失念してしまい、回答が大変遅くなってしまい、誠に申し訳ありませんでした！ 本当に素晴らしい機会を与えてくださり、心から感謝申し上げます。
17	飛行機の関係で、時間に間に合わず参加できませんでした。	私にとっては初めての経験だったので、大変勉強になりました。終わった後になって、もっとこうすればよかったなどいろいろな改善点も見えました。他の方々のポスターセッションも拝聴しながら、いろいろな取り組みを聞いたのは、有意義でした。人数の多さもあるため、ちょっと発表者の声が聞こえないことが多々あり、じっくり聞いて対話するというのが難しかったので、その点は少し残念でした。	
18		ポスターセッションは、お互いのつながりをもつ入口の役割になると感じました。短い時間なので、実践の概要しか伝えることはできませんが、その場で人と人がつながり、お互いに連絡をとりあえるようになる貴重な場であったと思います。	会場準備など本当にお世話になりました。ありがとうございました。
19	小島先生・櫻井先生のご説明が分かりやすかったです。今後全国に拡げていかれると思いますが、「ことばの力のものさし」作成にこめられた願いが、子ども達に関わる皆様にはしっかりと届けられていくことを願います。	ポスターセッションは経験が少ないうえで難しかったです。	運営に携わった皆さま、大変だったと思います。ありがとうございました。
20	午前中の全体会では、多文化多言語の子どもへの願いや思いがギュッと詰まったお話を聞くことができ、日頃の実践への勇気ももらいました！	それぞれの現場で実践された先生方に直接お話を聞くことができ、学びと刺激のある時間で大変ありがたかったです。実践発表後に質問できる時間がしっかりあって気になることを質問することができました。どの子にも、様々なアプローチでことばの力を高めることができることがわかり、これからが楽しみになりました。時間が許せばもう1クールまわりたいかったです！ 午後1番、祭りの出陣で会場が和やかな雰囲気になり発表前にリラックスできました。	オンラインでは味わえない会場の雰囲気や、本事業をつくってきた方々の熱量や実践者の思いが伝わってきて、参集型のよさを改めて感じました。準備が本当に大変だったと思いますが、おかげさまで最高の学びの場になり、これからは楽しみにしています。事務局の方々に改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました！

21	包括的なことばの力を含む「高校生のものさしをつくる」という歴史的な大プロジェクトに、一員として参加させていただいたことに、感謝申し上げます。小島先生と櫻井先生の熱いお話しをお聞きし、「ことばの力のものさし」を拝見したことは、このものさしを使ったアセスメントが「権威」になってはならないということです。何より身を削って作ってくださった櫻井先生や小島先生をはじめとする先生方の思いとちがうからです。 高校生のはじめての「ことばの力のものさし」は、母語の授業があり複数の言語環境を大切にしている大阪の校校の先生方には受け入れやすいと思います。日本語の専門家でなくても、生徒をよくみている方、何とかその生徒さんの力を引き出してあげたいと思っている方なら使えるようにしていかなければ、普及しないと思います。多くの方が使えるように、生徒さんの何を、どう伸ばしていくか、どう支援していくか、みんなで話し合う時のツールにできればいいなと思っています。	ことばの力のものさし」の私なりの使い方について、「だれも置き去りにさない」という願いがこの表にはこめられていることをポスターセッションの時にもっとお伝えしたかったのですが十分お伝えできませんでした。経験として私の頭の中にぼんやりあった生徒の地図をデータや理論に裏打ちされたアカデミックな、しかもわかりやすいカラフルなものとして生み出してくださりほんとうに感動しています。 他の方の発表もたくさんお聞きしたかったです。	ご準備いただいた、スタッフの方、ほんとうにありがとうございました。
22	この事業の目的、意義、経過がよくわかりました。	たくさんの方に聞いていただいたのが何よりでした。	日本語教育に関わっておられる方々の意欲と情熱がひしひしと感じられました。
23	登壇者の皆さまのご発表、全てが、本事業の経緯、思い、どれだけの苦労があったのかよく伝わりました。特に、小島先生の「子どもの力に光を当てる」これは、言葉だけではなく本来、子どもが潜在的に持っている能力全てにおいて、光を当てよう。と受け止めました。櫻井先生がサンプルとして聞かせて下さった中国の女の子の話も、子どもの力を信じないと分析は大きく変わってくることで、そして、何よりも、（私の話を）聞いてくれた！先生に伝わった！という感覚が、また自信へとつながるのだらうと思いました。子どもが輝ける言葉は、実は無限にあるということ、その時、どんな言葉で表現してくれるのか、一瞬を見逃さないように、輝きに導ける支援者でありたいと思いました。	ポスターセッションの手法は、特に形式はなく、自由スタイルでいいというハードルをうんと下げて下さったおかげで、当団体は、聞きにきて下さった方々と、楽しくお喋り（お話）ができて、とても楽しかったです。しかし、他の団体（ブース）を拝見した時、ほとんどが、時間を決めてお話をされ、後で質疑応答というスタイルだったので、当団体は、大丈夫だったかなあと少し心配になりました。	運営、進行、本当ににお忙しかつたとお察します。皆さま、常に笑顔で、こちらまで、さらに楽しい気分になりました。本当にありがとうございました。
24	プログラムの内容は時間もとてもよかったです。	全国で外国にルーツを持つ子たちを支援しているみなさまの工夫した活動、動力や成果を観てすごかったです。	今回、ポスターセッションに参加して、半分の説明を聞けませんでした、ポスターを閲覧できたので活動の内容を把握できたと思います
25	O programa da manhã foi muito bom, o trabalho que as pesquisadoras desenvolvem são de grande valia, apresentando em fatos e números a mensuração do nível de conhecimento da criança e as perspectivas de desenvolvimento direcionado. 午前中のプログラムは非常に素晴らしい、研究者が行っている研究は非常に価値があり、子供の知識レベルの測定と目標とする発達の見点を事実と数字で示していました。	Houve exposição de vários trabalhos e iniciativas muito interessantes. Divulgar esses trabalhos faz com que a conscientização seja mais abrangente. Ao participar no estande, foi muito emocionante ver os trabalhos dessas crianças, que se esforçam em vários sentidos para aprimorar a língua materna ou a língua de herança e paralelamente desenvolver no idioma japonês. Acredito que futuramente, esse seja o diferencial, mediante o apoio e suporte que possamos dar. 非常に興味深い取り組みがいくつも展示されていました。これらの実践を公開することで、認識がさらに広がることでしよう。今回の活動に参加して、子どもの母語や継承語を向上させつつ、同時に日本語の力を伸ばすためにさまざまな方法で努力されている各地での取り組みを見るのは非常に刺激的でした。	Foi muito bom e interessante, acho até que houve pouco tempo para visitar e explorar a área dos estandes. Os estandes estavam com projetos muito interessantes. Na parte final, participamos em dois grupos, no segundo grupo que participei, ficou um pouco aquém da minha expectativa de buscar e acrescentar conhecimento. O evento como um todo, foi muito bom. Muito obrigada! とても良くて面白かったので、すべてのポスターセッションを回る時間が足りませんでした。とても興味深い活動が多く、最終的には2つのポスターセッションに参加しました。イベント全体としてはとても良かったです。どうもありがとうございます！
26	開発チームの先生方の熱い熱い思いとご尽力に胸が熱くなりました。本当に感動しました。 以前、NHKの番組で、ロドリゴさんが小島先生のことを「あの人はどうしてこんなに、ぼくたちのことにこだわってくれるのか、とびっくりした」というようなことを語っていたのを、鮮烈に覚えています。 外国につながる子どもと接する者が「あなたには力があるよ」「日本語で今、自由に表現できないことがたくさんあっても、あなたには考える力があることを、私はわかるよ」というメッセージを伝えていくことの大切さもあらためて胸に刻みました。そのアンテナを研ぎ澄まして子どもを見るという視点も、関係者が共有することの大切さも。	「ことばの力のものさし」に照らし合わせて、生徒の現在地を捉えて目標を設定して実践していくことで、試行錯誤しながら、「ものさし」への理解を深めることができたことは、貴重な経験でした。自分の見立てには迷いも多々ありましたが、いつも「絶対に100%正しいということはあり得ない」という認識を持ちながらも、できるだけ誠実に生徒の状況を捉えて理解して伸ばしていけるように努めていきたいです。 発表をする中で、改めて自分が実践の中で大切にしていた核を確認することができました。それは、生徒が持っている「思考」する力を、対話の中で引き出し、生徒自身にその力に気づいて自信をもってほしい、ということでした。 私の実践は地域のボランティア活動で、流動的な状況の中で行っていく面が大きかったですが、比較的自由に縛りのない場で、生徒が何かに取り組むきっかけを与えて、そこで見せてくれたキラリと光るものをとにかく褒めて、盛り上げて、「ワタシって意外とイケテルかも！」と思って挑戦できるように応援する役割が、地域の教室の支援者にはあるかなと改めて考えています。学校での動きにアンテナを張り、連携しながら、地域の教室の支援者としてできることを、今後も探っていきたいです。	貴重な機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。他の方の発表においては、十分に聞くことができなかったものもあり残念でしたが、その分、報告書をじっくり読ませていただきたいという思いも高まりました。



ぼしゅう
＜募集テーマ＞

ぼく わたし まち しゃかい
僕・私のみらい ～こんな街や社会になったらいいな～

さくひん
作品の
ようしき
様式

データ・原画 なんでもOK！

てが けいしきとうと
手書き・パソコン（タブレットなど）形式等問いません。
おく げんが へんきやく りょうしょう
※ お送りいただいた原画は返却できませんのでご了承ください。

おうぼ
応募
のひと
できる人

ようじ だいがくせい
幼児から大学生まで

しめきり

2024年 **12月2日(月)** ひつちゃく 必着

おうぼ ほうほう
応募方法

イラスト

ほんしうらめん おうぼようし
・本紙裏面の応募用紙

てん うらめんきさい あてさき おく
2点を、裏面記載の宛先までお送りください。

か ほんじぎょう せいかぶつ
描いていただいたイラストは、本事業の成果物の
ひょうし さしえ かつよう
表紙や挿絵に活用させていただきます。

※イラスト採用者には個別連絡にて、掲載方法をご確認いただきます。

と あ じぎょう すいしん いいん かい じむ きょく
＜問い合わせ＞ 事業推進委員会 事務局

9:00～17:00 （担当者： 増谷・小段）

hyouka-chousa@tufs.ac.jp

TEL: 042-330-5908

2024年度 文部科学省委託事業

688 『日本語能力評価方法の改善のための調査研究』



応募用紙

① 描いた人の名前（ふりがな）

② 学校名・団体名（学年・年齢など）

③ 外国につながる方の場合はそのルーツ

④ 連絡先（メールアドレス、携帯番号など）

紹介文（絵に込めた思いやその絵を描いた理由）

★日本語で書いても、その他の言語で書いても OK！

おうぼう さき
応募先

◆データの場合： 件名に「イラスト応募」と記載し、下記アドレスまでお送りください。
hyouka-chousa@tufs.ac.jp

◆郵送の場合： 下記住所までお送りください。
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 多言語多文化共生センター
増谷・小段宛（折り曲げ不可）

感謝状

〇〇市立〇〇小学校〇年

〇〇〇〇〇 〇〇〇〇 殿

あなたの作品とその説明文は、私たちに大きな感動を与えてくれました。
素敵な作品とメッセージを届けてくださり、ありがとうございました。
よってここに深く感謝の意を表します。
世界中のすべての人が、未来に夢や希望を持つことのできる社会を一緒に
つくっていきましょう。

2024年度文部科学省委託「日本語能力評価方法の改善のための調査研究事業」推進委員長
東京外国語大学 多言語多文化共生センター センター長 小島祥美

2025年 2月 15日

